

やまぶき

第13集

〈学校教育のための博物館活用の手引き〉



川越市立博物館

あいさつ

川越市教育委員会
教育長 新井孝次

平成20年3月に告示された新学習指導要領は、教育基本法の改正等で明確となった教育の理念を踏まえ、子どもたちの「生きる力」をより一層はぐくむことを目指しています。これを受けて各学校においては、諸準備に万全を期し特色ある教育課程の編成に尽力されていることと存じます。

川越市教育委員会は、この新学習指導要領の趣旨を踏まえ、子どもたちの「生きる力」を育成するために、様々な事業を展開し、学校教育の充実に努めているところです。

川越市立博物館では、学校の教育活動への博物館活用を推進し、児童生徒の学習を支援するとともに、子どもたちの豊かな心を育てる体験教室や先生方を対象とした研修会などを開催し、学校との連携を進めております。また、開館以来、川越市立博物館の「博学連携」の中核組織として活動してきた博物館利用研究委員会では、小・中学校の先生方と博物館職員が協同して、学校教育における博物館活用の研究を進めております。

今回は、平成21・22年度と2年間の継続研究で「博物館の常設展示を活用した授業づくりー新学習指導要領のねらいに迫る博物館資料の活用ー」をテーマとし、新学習指導要領と博物館活用の関連をより重視し、授業実践を行い考察を加え、先生方が活用し易い教材開発に努めて参りました。

また、この「やまぶき」第13集も第12集同様、データをデジタル化して川越市立博物館ホームページに掲載いたします。各学校では、このホームページ及び博物館資料を学校で活用し、教科等の中で役立てていただければ幸いです。

結びに、本資料作成に尽力された博物館利用研究委員会の各委員の先生方に、心からお礼申し上げあいさついたします。

博物館利用研究委員会
委員長 平岡 健

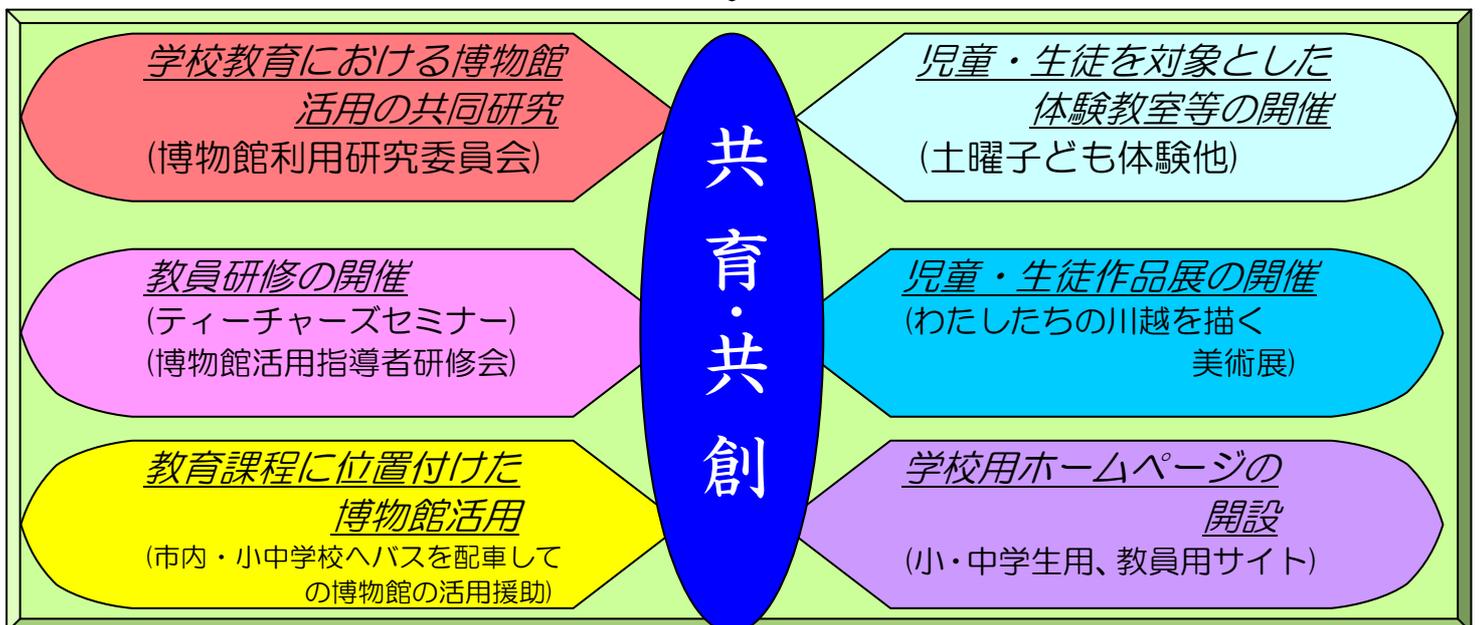
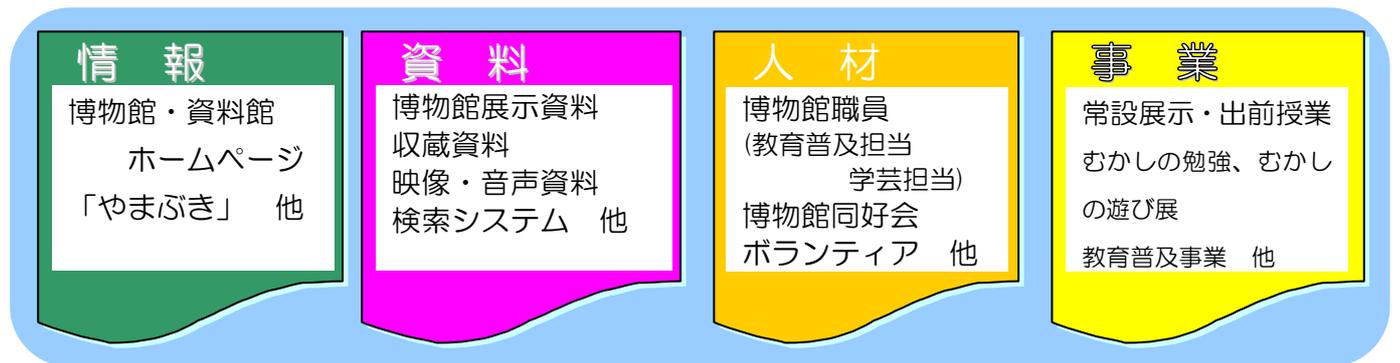
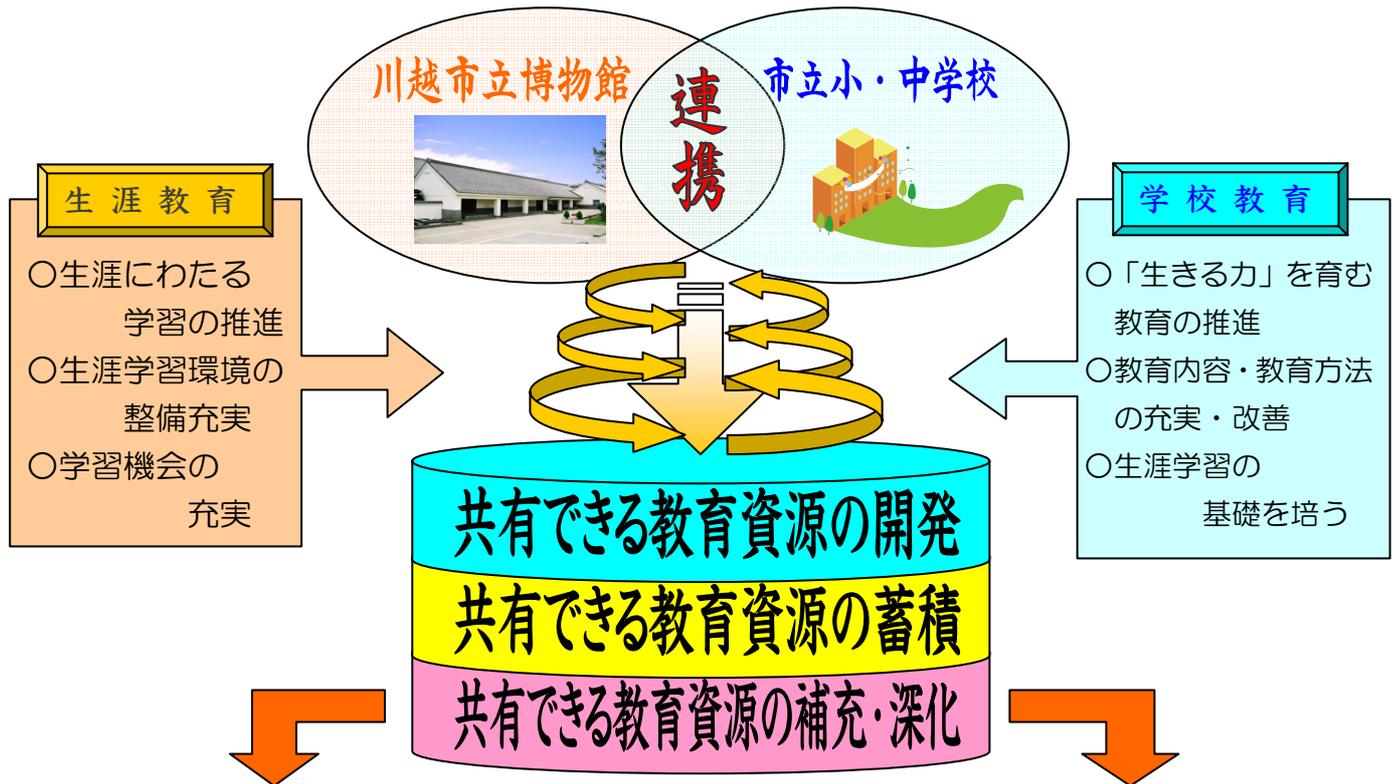
平成23年度に小学校、24年度に中学校の新学習指導要領が全面実施となります。前学習指導要領は、総合的な学習の時間が創設され、学校と博物館との連携の在り方を問い直す大きな契機となったことは今もなお記憶に新しいところです。今回の改訂では、大きな変化がないように映るかもしれませんが、しかしながら学校をはじめとする教育機関としての責務は、一層重みを帯びています。というのも今回の改訂は改正教育基本法等を踏まえた改訂であることを忘れてはならないからです。例えば、教育基本法第13条では「・・・教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚するとともに、相互の連携及び協力に努めるものとする」と規定されています。学校と博物館とが共に手を取り合い、子どもたちの生きる力の育成に向けた取組の一層の充実が求められていると私は思います。

さて、川越市立博物館は、学校との結びつきが強い博物館です。小・中学校の教員16名からなる博物館利用研究委員会が中心となり、これまでの財産となる教育資源を大事にしながら、平成21・22年度の2カ年に渡り、新学習指導要領に対応する連携の在り方やその実践事例について研究を進めてきました。今回の研究では、新学習指導要領の各教科等の内容を博物館活用の観点から分析するとともに、博物館の所有している資料の中で利用可能な資料等をリストアップし、実践で検証するという取組を重ねてきました。そして、その研究成果を「やまぶき第13集」としてまとめました。新学習指導要領と博物館活用におけるポイントを分かりやすく図でまとめ、その活用方法を指導案等で具体的に示しました。これまで以上に充実した教育実践を行うヒントとなるものと確信しております。ぜひ、この「やまぶき第13集」を将来を担う子どもたちの育成に役立てていただきたいと思います。

「思いは伝わる。熱は広がる。」という言葉聞いたことがあります。互いの連携を拡充し、子どもの教育に真摯に向き合う。その原動力は「熱」、つまり「情熱」です。今後も「情熱」を持ち、研究・実践に取り組んでいきたいと思っております。

結びに、この研究・実践に尽力いただいた委員の皆様をはじめ、ご協力いただきました各学校の校長先生に、お礼申し上げます。

川越市立博物館における学校教育との連携



博物館利用研究委員会

目的

- 学校の教育課程に位置付けた博物館・文化財の活用の研究と実践
- 地域に根ざした博物館・文化財活用の研究

研究開発

教科、総合的な学習の時間における博物館・文化財の研究・実践

教育普及

博物館活用の手引き
「やまぶき」の発行
博物館活用指導者研修会

校外学習支援

「わたしたちの川越を
描く美術展」
作品審査

博物館利用研究委員会

委員長

副委員長

国語

社会

生活

英語

音楽

美術・図工

総合的な学習の時間

平成21・22年度の研究

博物館の常設展示を活用した授業づくり

—新学習指導要領のねらいに迫る博物館資料の活用—

霞ヶ関北小学校校長
大東西中学校教頭

平岡 健 (委員長)
内野 博紀(副委員長)

川越小学校教諭 高橋 光代(国語)
霞ヶ関西中学校教諭 志村 綾子(国語)
上戸小学校教諭 岡島 光次(社会)
大東中学校教諭 関向 潤(社会)
仙波小学校教諭 奥富 優子(生活)
霞ヶ関南小学校教諭 鴨下 友恵(生活)
福原小学校教諭 山本 智子(英語)
寺尾中学校教諭 星野 晃(英語)

川越第一小学校教諭 高島 千絵子 (音楽)
初雁中学校教諭 齋藤 晴美 (音楽)
高階南小学校教諭 浅見 良委(図工・美術)
川越第一中学校教諭 新堀 晃香(図工・美術)
中央小学校教諭 江田 公恵(総合的な学習の時間)
野田中学校教諭 向後 理恵子(総合的な学習の時間)
※平成21年度研究委員
川越西小学校校長 大谷 一義(委員長)
大東中学校教頭 平岩 俊哉 (副委員長)

担当した職員 井口 修一(教育普及担当主査) 大野 晴代(指導主事) 武蔵 昌行(指導主事)

研究主題 「博物館の常設展示を活用した授業づくり」
—新学習指導要領のねらいに迫る博物館資料の活用—

博物館の常設展示の活用



新学習指導要領のねらいに迫る

- 「生きる力」の育成
- ・言語活動の充実・体験活動の充実
 - ・伝統や文化に関する教育の充実
 - ・外国語教育の充実など

授業づくり

授業実践を通して博物館の常設展示の活用を図る

学習意欲の向上

思考力・判断力・表現力の育成

博物館

児童・生徒の身近な学習の場
生涯にわたって活用する態度や能力の基礎を養う場

研究の視点と手だて

国語

社会

生活

英語

音楽

図画工作
美術

総合的な学
習の時間

研究の視点 1

◎新学習指導要領と博物館活用の関連

- 新学習指導要領改訂のポイント
- ↓
- 活用できる博物館資料の検討
- ↓
- 博物館資料活用例

研究の視点 2

◎常設展示を活用した授業実践

- 学習指導案づくり
- ↓
- 研究主題とのかかわりを明記
- ↓
- 授業実践
- ↓
- 授業後の考察

国語科

「いろはがるた」や「職人尽絵」の活用

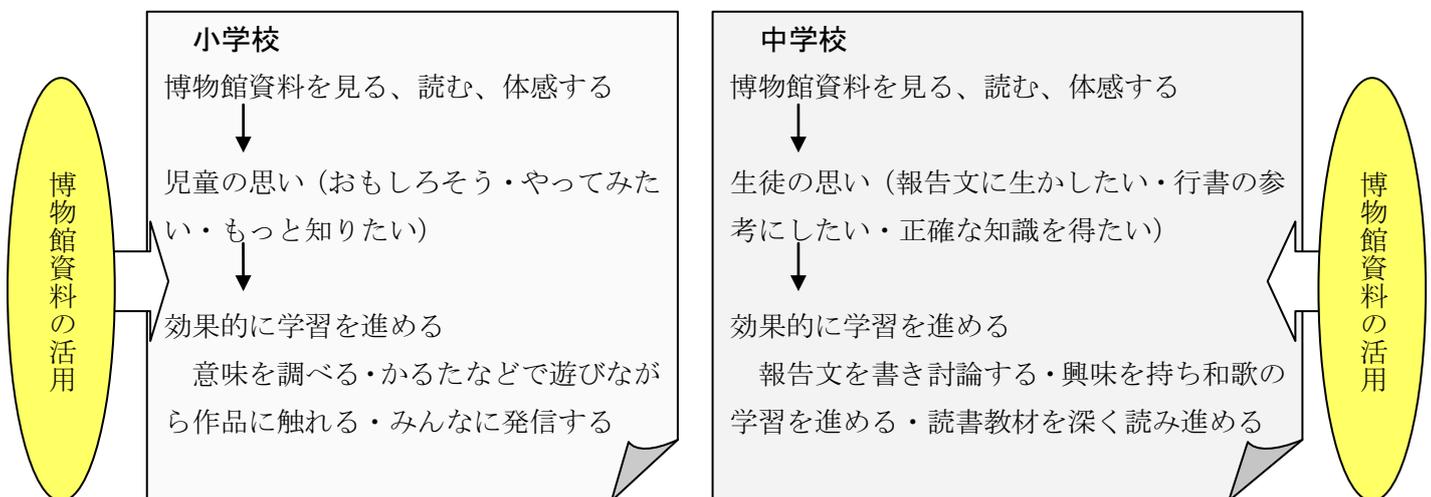
小中学校国語科学習指導要領改訂のポイント

改訂の趣旨：言語活動の充実(記録、説明、批評、論述、討論などの学習を充実させる)
 伝統や文化に関する教育の充実(ことわざ、古文・漢文の音読など古典に関する学習を充実させる)

小学校	共通	中学校
・文字指導の内容の改善	・目標及び内容の構成・学習過程の明確化 ・言語活動の充実 ・伝統的な言語文化に関する指導の重視 ・読書活動の充実	・漢字指導の内容の改善 ・書写の指導の改善

☆言語活動を充実させ、伝統的な文化を理解・継承し、新しい文化を創造・発展させるため、小学校中学年から、古典などの暗唱により言葉の美しさやリズムを体感させた上で、その後、系統性を踏まえ、和歌・物語・俳諧、漢詩・漢文などの古典や物語、詩、伝記、民話などの近代以降の作品に触れ、理解を深めさせる。その方法として、博物館資料を効果的に活用したい。

《博物館の活用と新学習指導要領との関連のポイント》



授業実践

博物館を活用した学習指導	
—小学校—	
单元名	いろはがるたであそぼう
学年	第3学年
時期	12月
活用する博物館資料	いろはがるた

博物館を活用した学習指導	
—中学校—	
单元名	本の世界を広げよう 江戸からのメッセージ
学年	第1学年
時期	12月
活用する博物館資料	職人尽絵

博物館の活用と新学習指導要領との関連

小学校 国語科

新学習指導要領から	活用できる博物館資料	活用例
<p>第2 各学年の目標及び内容 [第1学年及び第2学年] 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1)ア(ア) 昔話や神話・伝承などの本や文章の読み聞かせを聞いたり、発表し合ったりすること。</p>	<p>つづら、機織り機、草履、笠、蓑</p>	<p>読み聞かせの時間(1年) ◇資料貸し出し 事前に映像を撮影「鶴の恩返し」「かさこ地蔵」などの読み聞かせの導入で用い、児童の関心を高める。</p>
<p>第2 各学年の目標及び内容 [第3学年及び第4学年] 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1)ア(ア) 易しい文語調の短歌や俳句について、情景を思い浮かべたり、リズムを感じ取りながら音読や暗唱をしたりすること。 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1)ア(イ) 長い間使われていたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使うこと。</p>	<p>いろはがるた</p>	<p>読いろはがるたで遊ぼう(3年) ◇資料貸し出し 博物館見学 特別展示(昔の遊びコーナー)のいろはがるたについて知り、関心を高め、身近ないろはがるたの読み札を音読したり気に入った言葉でカードを作ったりする。</p>
<p>第2 各学年の目標及び内容 [第5学年及び第6学年] 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1)ア(ア) 親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章について、内容の大体を知り、音読すること。 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1)ア(イ) 古典について解説した文章を読み、昔の人のものの見方や感じ方を知ること。</p>	<p>やまぶき〈学校教育のための博物館活用の手引き〉 p 29～39 川越にゆかりの資料 万葉歌碑 伊勢物語 後拾遺集 常山紀談 正岡子規 野口雨情</p>	<p>読晴間 海雀 雲(5年) ◇資料印刷 3編の詩をもとに、文語調の詩に関心をもち、川越にゆかりの資料から気に入った詩を見つけ音読する。 読今も昔も(6年) ◇資料印刷 博物館見学に合わせ句碑巡り 柿山伏を声に出して読み、狂言のおもしろさや昔の人のものの見方について学習したあと、川越にゆかりの資料から歌碑の意味を調べ昔の人の感じ方にふれる。</p>

第3学年 国語科学習指導案（小）

1 単元名 「いろはがるたで遊ぼう」

2 単元について

(1) 児童観

伝統的な文化に関して第1・2学年では物語の読み聞かせを通して古典に親しんできた。第3学年では、かるたは目にしたことはあるが、現代的センスで作られたものに親しんでいる児童が多く、いろはがるたを体験したことのない児童もいる。そこで、遊びを通して、いろはがるたに親しみ言葉のおもしろさに気づき、主体的にその文の意味を調べる活動に取り組ませたい。

(2) 教材観

本教材「いろはがるた」は、いろは四十七文字と「京」で始まることわざを書いた48枚の読み札と、その内容を絵に描き頭文字を添えた絵札からなる。読み上げられた読み札に合う絵札を取って遊ぶ。江戸時代中期に上方で作られ、後に江戸に伝わった。上方かるたと江戸かるたではことわざが異なる。江戸かるたは、「い」の「犬も歩けば棒に当たる」から、「犬棒かるた」ともよばれる。

これまで、いろはがるたのことわざを生活や昔話の世界などで耳にしたことはあっても、その意味を調べたことのない児童にとって、本単元は、多くのことわざに触れ、日本の伝統文化に親しむことができる教材である。

(3) 指導観

本教材では、いろはがるたをと言う日本の伝統文化と出会うと共に、先人が、短い句の中に巧みに織り込んださまざまな教訓やたとえを知る機会となる。より興味を持って学習に取り組めるよう、まず最初にいろはがるたの実物に触れ、遊びを通して、読み札の意味に迫れるよう指導していきたい。

3 研究主題とのかかわり

(1) 本単元における新学習指導要領のかかわり

○長い間使われていたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使うこと教材は、我が国の伝統と文化に対する関心や理解を深め、それらを尊重する態度を育てるのに役立つこと。

- ・博物館にある「犬棒かるた」を資料として取り上げ、現在でも広く使われていることを知ることを通して、先人が短い句の中に巧みに折り込んだ様々な教訓やたとえを知り、我が国の伝統と文化に対する関心や理解を深める。

(2) 博物館資料の活用

①資料名（展示コーナー名）

「犬棒かるた」（収蔵庫）

②活用の仕方

ア 犬棒かるたと他のかるたを比較し、札の意味を考える。

4 単元の目標

- 古くから親しまれてきた「いろはがるた」について知り、親しもうとしている。
- 「いろはがるた」に書かれていることわざの意味を知り、音読して親しむことができる。

5 単元の評価規準

ア 国語への関心・意欲・態度	エ 読む能力	オ 言語についての知識理解技能
古くから親しまれてきた「いろはがるた」について知り、親しもうとしている。	「いろはがるた」に書かれていることわざの意味がわかる	語感、言葉の使い方に対する感覚などに関心を持っている。

6 学習指導計画（2時間扱い）

小単元・目標	学習内容・学習活動	博物館資料の活用
「いろはがるた」について知る。（1）	○「犬棒かるた」と「いろはがるた」 ・いろはがるたの読み方 ・各札の意味(読み札・絵札) ・お気に入りベスト5を探す	○「犬棒かるた」 ・犬棒かるたについて知り、関心を高め、身近ないろはがるたについて学習する。
「いろはがるた」に親しむ。（1）	○かるた大会 ・お気に入りベスト5を取ろう ・取るコツを考える	・気に入った読み札を探すことを通して、いろはがるたが昔から受け継がれた文化であることを体感する。

7 本時の学習指導（1/2時）

(1) 目標

- 古くから親しまれてきた「いろはがるた」について知り、親しもうとしている。

(2) 展開

学習活動・学習内容	○教師の働きかけ ☆評価 ◎博物館資料活用の視点
1 かるたをした経験を想起する。 ・かるたは伝統的な遊びであること	○本時の展開につなげるように想起させる。
2 博物館の犬棒かるたを見る。 ・短い言葉で表現されていること	◎博物館のかるたと市販のかるたを用意し比較して考えさせる。
3 学習のめあてを確かめる。	

いろはがるたで遊ぼう。	
4 いろはがるたを読む。 ・列読み ・グループ読み ・掛け合い読み	○口の形や、リズムに気をつけさせる。
5 気に入った言葉（ことわざ）を見つけ、「お気に入りベスト5」を作る。 ・気に入った句 ・句の意味	○意味を記した資料を配布し、調べさせる。 ☆いろはがるたに書かれていることわざに興味を持ち調べることができたか。（学習カード）
6 できあがったカードを見せながら句を音読し、意味を教え合う。	○発表しあう中で、自分の選んだ句と比べさせる。
7 本時のまとめ	○本時のまとめをし、次時の学習への意欲化を図る。

8 成果と課題

(1) 成果

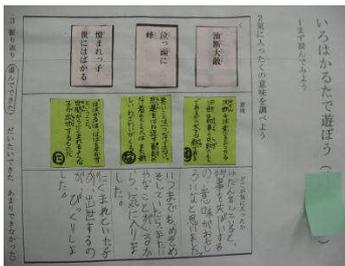
- 事前に聞いたところ、かるたをした経験のある児童が多かったが、それが、古くから親しまれていたものだという意識は、持っていない児童が多かった。そのため、博物館所蔵の犬棒かるたを見せ、それが、身近な祖父母やもっと前の時代の人々も親しんだものだと知らせることで、より意欲的に学習できた。
- 授業で「犬棒かるた(博物館)」を示したクラス(A)と示さなかったクラス(B)の授業後の自己評価を比較すると次のような違いが見られた。

組	進んでできた	だいたいできた	あまりできなかった
A	69%	29%	3%
B	51%	46%	3%

2つのクラスを比較すると、具体物を示して指導を進めることは意欲を喚起する手立てとしてとても有効であった。

(2) 課題

- 博物館から、所蔵品を貸し出していただくのは難しい面もある。今後は、3年生の博物館見学の機会をとらえ児童に意識させたり、事前に読み札や絵札を撮影させていただくなどの手段により、授業を展開していく必要がある。



新学習指導要領から	活用できる博物館資料	活用例
<p>第2 各学年の目標及び内容 〔第1学年〕2 内容 「B書くこと」(1)－イ 集めた材料を分類するなどして整理するとともに、段落の役割を考えて文章を構成すること。</p> <p>「A話すこと聞くこと」(1)－オ 話合いの話題や方向をとらえて的確に話したり、相手の発言を注意して聞いたりして、自分の考えをまとめること。</p> <p>「A話すこと聞くこと」(2)－イ 日常生活の中の話題について対話や討論などを行うこと。</p>	<p>●職人尽絵</p>	<p>○説明的文章『江戸からのメッセージ』(1年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報告文を書く…「江戸の暮らしとリサイクル」 ・パネルディスカッション…「江戸の暮らしの知恵」 ・ダイベート…「江戸の暮らしに戻るべきか否か」
<p>第2 各学年の目標及び内容 〔第2学年〕2 内容 「B書くこと」(1)－ウ 事実や事柄、意見や心情が相手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えたり、描写を工夫したりして書くこと。</p> <p>「A話すこと聞くこと」(2)－ア 調べて分かったことや考えたことなどに基づいて説明や発表をしたり、それらを聞いて意見を述べたりすること。</p>	<p>●「川越藩ゆかりの甲冑」</p> <p>●「川越唐棧手織りの会」の方々</p>	<p>○古典「扇の的」(2年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報告文を書く…武士の心情の把握のため、実物を見てレポートを書く。 ・インタビュー…武士の装いの関連から、織物についての知識を得ることで、昔の人々の心情に迫る。
<p>〔伝統的な言語文化と国語の特質に関わる事項〕(2)－ア 漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書くこと。</p>	<p>●「三十六歌仙額」</p>	<p>○書写の導入(2年)</p>
<p>〔伝統的な言語文化と国語の特質に関わる事項〕(1)－ア(ア) 歴史的背景などに注意して古典を読み、その世界に親しむこと。</p>	<p>●「三十六歌仙額」</p>	<p>○古典の導入『和歌』(3年)</p>
<p>第2 各学年の目標及び内容 〔第3学年〕2 内容 「C読むこと」(1)－オ 目的に応じて本や文章などを読み、知識を広げたり、自分の考えを深めたりすること。</p>	<p>●川越ひらた船復元模型</p>	<p>○読書の導入『高瀬船』(3年・発展教材)…名作を読む補助として、舞台となる船を見ることで、登場人物たちの心情に迫る。</p>

第1学年 国語科学習指導案（中）

1 単元名 「本の世界を広げよう」

2 単元について

(1) 生徒観

生徒の目に「江戸」はどんな時代に映っているのだろうか？ 幕府・将軍・生類憐みの令・元禄文化・化政文化・浮世絵など歴史で習った事項が浮かんでくるかもしれない。しかし、具体的に、自分たちの祖先である江戸時代の人々がどんな暮らしをしていたかを想像することは難しいだろう。

(2) 教材観

本作品は、江戸文化についての著書が多数ある文筆家・杉浦日向子さんの作品である。

江戸時代とは縁遠い中学生も読んで納得できる著書である。浴衣がおしめ、雑巾そして鼻緒の芯になっていたり、最後に残った灰までも肥料として使ったりと、江戸の人々の知恵に感心しながら読み進めていくことが予想される。

(3) 指導観

“エコロジーな生活”が叫ばれている現在、エコを地で行く生活が日本に、しかも400年も前にあったことに驚き、誇りすら持つかもしれない。そんな知的好奇心を刺激しつつ、さらに、具体的な叙述、筋道の通った文章の展開を確認することで、生徒の興味を惹きつけたい。

3 研究主題とのかかわり

(1) 本単元における新学習指導要領のかかわり

教材は、我が国の伝統と文化に対する関心や理解を深め、それらを尊重する態度を育てるのに役立つこと。

・江戸時代の庶民生活がわかる資料を教材として活用し、今も受け継がれている先人の知恵や工夫について考えることを通して、我が国の伝統や文化に対する関心、理解を高めていく。

(2) 博物館資料の活用

①資料名（展示コーナー名）

「職人尽絵(複製)」 (近世)

②活用の仕方

ア 本単元の導入において活用し、江戸時代の庶民の暮らしへの関心を高める。

イ 絵図からわかる先人の知恵や、今も受け継がれている技術などについて考える。

4 単元の目標

○文章を読み、読書の世界を広げようとしている。

○日常生活の話題について対話や討論などを行うことができる。

5 単元の評価規準

ア 国語への関心・意欲・態度	イ 話す・聞く能力	エ 読む能力
読書を通して、ものの見方や考え方を広げようとしている。	話題や方向をとらえて話し合い、考えをまとめている。	文章の事実と意見を読み分け、目的や内容に応じて要約している。

6 学習指導計画（2時間扱い）

○小単元 ●目 標	学習内容・学習活動	博物館資料の活用
○本の世界を広げよう (2) ●文章を読み、読書の世界を広げることができる。	1 『職人尽絵』を見て、何が描かれているか発表する。 2 本時の目標を知る。 3 本文を通読する。 4 本文から読みとれる「江戸」について発表する。 5 文章の構成をつかむ。 ----- 6 事実を読みとる。 7 筆者の主張をつかむ。 8 筆者の主張に対する自分の意見を述べる。	○「職人尽絵」：全24枚 ・研師 ・桶師、畳師・扇師 ・桧物師・糸師・筆師・革師 ・経師 ・矢師・仏師・鎧師 ・傘師 ・機織師・藁細工師 ・型置師・鍛冶師・縫取師 ・行麩師・纈纈師・蒔絵師 ・数珠師・弓師 ・番匠師 ・刀師

7 本時の学習指導（1／2時）

(1) 目 標

○読書に親しみ、ものの見方や考え方を広げようとしている。

(2) 展 開

学習活動・学習内容	○教師の働きかけ ☆評価 ◎博物館資料活用の視点
1 「職人尽絵」を見学する。 ・描かれていること ・感じたこと ・疑問に思ったこと	○いろいろな質問をして、興味を持たせ、ねらいに迫られるようにする。 ◎「職人尽絵」：全24枚（25職業） ・研師 ・桶師、畳師 ・扇師 ・桧物師 ・糸師 ・筆師 ・革師 ・経師 ・矢師 ・仏師 ・鎧師 ・傘師 ・機織師 ・藁細工師 ・型置師 ・鍛冶師 ・縫取師 ・行麩師 ・纈纈師 ・蒔絵師 ・数珠師 ・弓師 ・番匠師 ・刀師

<p>2 「職人尽絵」について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・描かれた理由 ・描かれた背景 ・現代との共通点、相違点 <p>3 本時の目標を知る。</p>	<p>◎「職人尽絵」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理由：職人の地位の向上 ・背景：町の繁栄、手工業生産の需要の高まり、貨幣の流通の発達 <p>○発表に対し、適宜簡単な説明を加えていく。 ☆文章や図に対し、内容に関心を持ち知識を増やそうとしている。（観察）</p>
<p>「江戸からのメッセージ」を読み、人々の考え方を知ろう。</p>	
<p>4 本文「江戸からのメッセージ」を通読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章内容の理解 <p>5 本文から読みとれる「江戸」について発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長い間平和が続いたこと ・人口密度がかなり高いこと ・長屋暮らし、屋台・湯屋 ・振り売り、直し屋 ・基本理念は「もったいない」 ・物の形がなくなるまで修繕をくり返すこと ・道具は天然素材であること ・心が豊かなこと <p>6 筆者は、どんな江戸の知恵を紹介していたかを読みとり、文章の構成をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「序論」形式段落①② ・「本論」形式段落③～⑫ ・「結論」形式段落⑬～⑯ <p>7 次時の予告を聞く。</p>	<p>○現代にはない江戸時代の特徴について、線を引きながら聞かせる。 ☆文章の中心的な部分と付加的な部分に注意して読み要旨をとらえている。（観察）</p> <p>○線を引いたところをシートに記入し、発表させる。 ☆文章の構成や展開に注意して読み、構成をとらえている。（シートの内容の考察）</p> <p>○説明的文章の基本構成「序論」「本論」「結論」はそれぞれどこかを考え、班で話し合わせる ○根拠を加えながら、発表させる。 ☆相手の話をしっかり聞き、自分の考えを深めたり、自分の立場を明らかにし、わかりやすく伝えたりしている。（様子や態度の観察） ○筆者の主張を読み取り、それに対する自分の意見を述べられるようにする。</p>

社会科

「河越館」や「新河岸川の舟運、川越まつり」の活用

小中学校社会科学習指導要領改訂のポイント

改訂の趣旨

児童生徒が地域社会や我が国の国土、歴史などに対する理解と愛情を深めることを通して、社会的な見方や考え方を養い、そこで身に付けた知識、概念や技能などを活用し、よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を培うことを重視するようにした。

小学校	共通	中学校
<ul style="list-style-type: none"> 我が国の伝統や文化についての理解を深め、尊重する態度を育成 作業的、体験的な学習や問題解決的な学習を一層充実 	<ul style="list-style-type: none"> 国際社会で活躍する日本人の育成を図るため、我が国や郷土の文化や伝統を受け止め、それを継承・発展させるための教育を充実 社会性や豊かな人間性を育むため、発達段階に応じ、体験的な活動を重点的に推進 言語活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的・基本的な知識概念や技能の習得 社会参画、伝統や文化宗教に関する学習の充実

博物館や郷土資料館等の施設の活用を図るとともに、身近な地域及び国土の遺跡や文化財などの観察や調査を取り入れる。

《博物館の活用と新学習指導要領との関連のポイント》

博物館資料の活用

- 知的好奇心を高め、学習への動機付けや深化を図る。
- 実物や本物に触れる感動を味わう。
- 施設を生涯にわたって活用する態度や能力の基礎となる。
- 学習のねらいを効果的に実現させる。
- 歴史に対する興味関心を高める。

- 地域の人々の生活や生活に根ざした伝統や文化に着目させる。
- 作業的体験的な学習を充実させ、社会事象に対する認識を深める。
- 観察や調査の結果を整理し、まとめ、発表する力を高める。

博物館資料の活用

博物館を活用した学習指導

— 小学校 —

小单元名 源頼朝と鎌倉幕府

学年 6年生

時期 6月

活用する博物館資料

河越館跡発掘出土品

博物館を活用した学習指導

— 中学校 —

中单元名 産業や交通の発達と町人文化の形成

学年 1年生

時期 1月

活用する博物館資料

・新河岸川の舟運、川越街道、川越まつり

新学習指導要領から	活用できる博物館品	活用例
<p>第2 各学年の目標及び内容 〔第3学年及び第4学年〕</p> <p>(1) 自分たちの住んでいる身近な地域や市（区、町、村）について次のことを観察、調査したり白地図にまとめたりして調べ、地域の様子は場所によって違いがあることを考えるようにする。</p> <p>ア 身近な地域や市(区、町、村)の特色ある地形、土地利用の様子、主な公共施設などの場所と働き、交通の様子、古くから残る建造物など</p> <p>(5) 地域の人々の生活について、次のことを見学、調査したり年表にまとめたりして調べ、人々の生活の変化や人々の願い、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考えるようにする。</p> <p>ア 古くから残る暮らしにかかわる道具、それらを使っていたころのくらしの様子</p> <p>イ 地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事</p> <p>ウ 地域の発展に尽くした先人の具体的事例</p> <p>〔第6学年〕</p> <p>(1) 我が国の歴史上の主な事象について、人物の働きや代表的な文化遺産を中心に遺跡や文化財、資料などを活用して調べ、歴史を学ぶ意味を考えるとともに、自分たちの生活の歴史的背景、我が国の歴史や先人の働きについて理解と関心を深めるようにする。</p>	<p>○各地域ごとの古くから残る建造物</p> <p>○保管されている資料 ・保管されている古い道具や文化財、写真等 ・居間の再現展示 ・駄菓子やの再現展示 ・教室の再現展示 ・たらいと洗濯機 ・釜</p> <p>○保管されている資料 ・昔の生活についての資料 ・古い道具 ・古くから伝わる伝統的な遊び ・伝統行事についての資料 川越まつり等</p> <p>○常設展示 ・川越の発展に尽くした人々の資料 ・中福村絵図</p> <p>○稲荷神社 阿弥陀堂</p> <p>○産業についての資料 ・古くから受け継がれている伝統的な資料</p> <p>○常設展示全体</p> <p>○保管されている資料</p> <p>○各地域の文化財など (本丸御殿、蔵造り資料館、河越館跡史跡公園資料展示室)</p>	<p>第3学年</p> <p>「わたしたちのまち」 ・学校のまわりのようす ・わたしたちの川越市</p> <p>「川越市の人びとのくらしのうつりかわり」 ・昔の道具調べ ・くらしのうつりかわり</p> <p>・川越市に古くから伝わるもの</p> <p>第4学年 「先人のはたらき」 ・三富の開たく</p> <p>第6学年 日本の歴史 ・歴史博物館へ行ってみよう (博物館を訪ねて、出会った歴史を探してカードや地図を作ったりして、歴史への興味関心を持たせる。)</p>

<p>ア 狩猟・採集や農耕の生活、古墳について調べ、大和朝廷による国土の統一の様子が分かること。その際、神話・伝承を調べ国の形成に関する考え方などに関心をもつこと。</p>	<p>○常設展示 〔原始、古代の生活文化の様相〕 ・縄文時代 ・弥生時代 ・古墳時代</p>	<p>「縄文のむらから古墳のくにへ」 ・縄文と弥生の暮らし ・村から国へ ・巨大古墳と豪族 ・大和朝廷と国土の統一</p>
<p>イ 大陸文化の摂取、大化の改新大仏造営の様子、貴族の生活について調べ、天皇を中心とした政治が確立されたことや日本風の文化が起こったことが分かること。</p>	<p>○常設展示 〔中世社会の変遷や文化の様相〕 ・奈良・平安時代</p>	<p>「天皇中心の国づくり」 ・聖徳太子の国づくり ・大化の改新と天皇の力の広がり ・仏の力で国を治める</p>
<p>ウ 源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いについて調べ、武士による政治が始まったことが分かること。</p>	<p>○常設展示 〔武士の活躍と川越〕 ・鎌倉時代 ○河越館跡史跡公園資料展示室 (川越市立上戸小学校)</p>	<p>「武士の世の中へ」 ・武士の登場と武士の暮らし ・武士の政治のはじまり ・頼朝が東国を治める ・街道に残る鎌倉武士のエピソード</p>
<p>オ キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一、江戸幕府の始まり、参勤交代、鎖国について調べ、戦国の世が統一され、身分制度が確立し武士による政治が安定したことが分かること。</p>	<p>・河越氏、上杉氏、太田氏、後北条氏など群雄が活躍</p>	<p>「戦国の世から江戸の世へ」 ・江戸城と徳川家康 ・江戸幕府と大名 ・人々の暮らしと身分</p>
<p>カ 歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学について調べ、町人の文化が栄え新しい学問が起こったことが分かること。</p>	<p>○常設展示 〔近世の社会や文化の特色〕 ・江戸をささえ、小江戸といわれた城下町川越の変遷、その組織や体制、また新河岸川舟運の繁栄など</p>	<p>「江戸の文化と新しい学問」 ・江戸のまちと人々の暮らし ・江戸時代の武士の学校</p>
<p>キ 黒船の来航、明治維新、文明開化などについて調べ、廃藩置県や四民平等などの諸改革を行い、欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことが分かること。</p>	<p>○常設展示 〔近代都市川越の発展〕 ・明治時代</p>	<p>「明治の国づくりを進めた人々」 ・明治の新しい世の中</p>

第6学年 社会科学習指導案（小）

1 小単元名 「源頼朝と鎌倉幕府」

2 小単元について

(1) 児童観 ※略

(2) 教材観

本小単元は小学校学習指導要領（平成20年3月告示平成23年4月一部改正文部科学省）の第6学年の内容（1）のウ「源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いについて調べ、武士による政治が始まったことが分かること」と、エ「京都の室町に幕府が置かれたころの代表的な建造物や絵画について調べ、室町文化が生まれたことが分かる」をねらいとし、武士による新しい政治を始めた源頼朝と鎌倉幕府、そして、武士や民衆の中から生まれた新しい室町の文化を取り上げる。

貴族の政治から武士の政治に移り変わる鎌倉時代について、平清盛や源頼朝、北条時宗などの活躍を中心に学習する。武士の活躍については、年表や歴史地図などの基礎的資料と合わせて肖像画やエピソードなどを効果的に活用し、児童の興味・関心を高めていくことが大切である。また、室町時代の文化は、代表的な建造物や絵画について調べて文化の特色をつかみ、文化の大切さや自分たちの生活とのかかわりなどに気付かせていくことが重要である。

(3) 指導観

新学習指導要領の改訂の要点にもある「基礎的・基本的な知識・技能を活用し、学習問題を追究・解決することができるようにする」ためには、社会的事象の意味や働きを考える力を育て、具体的な活動を通して調べたことを表現し、その表現活動を通して社会的な思考を深めていくことが重要であると考え。

そこで、本小単元では、自分が御家人だったら、幕府の政治や当時の武士の生活についてどのように考えるかという設定で学習を進める。御家人となった児童は、歴史的事象について調べて分かったことを、具体的な事実や当時の武士の心情などを理由にまとめさせ、自分の考えがもてるようにする。また、室町時代の文化については、調べ学習を行い、室町時代の文化の特色について考えさせ、自分たちの生活とのかかわりに気付かせていきたい。

3 研究主題とのかかわり

(1) 本小単元における新学習指導要領のかかわり

作業的、体験的な学習や問題解決的な学習を一層充実させせることにより、学習や生活の基盤となる知識・技能を習得させるとともに、それらをつかようとして観察・調査したり、各種の資料から必要な情報を集めて読み取ったりしたことを的確に記録し、比較、関連付け・総合しながら再構成する学習や考えたことを自分の言葉でまとめ伝え合うことによりお互いの考えを深めていく学習の充実を図る。

- ・学区内にある史跡の資料を取り上げ、児童一人ひとりに地域社会を含めた我が国の伝統や文化についての理解を深め、尊重する態度を育てる。

(2) 博物館資料の活用

①資料名（展示コーナー名）

「河越館跡発掘出土品」（河越館跡史跡公園資料展示室）

②活用の仕方

ア 出土品を手がかりに、武士の生活について考える。

4 小単元の目標

- 武士が力がもった時代に関心をもち、武士による政治やくらしの様子、文化について進んで調べようとする。
- 武士による政治が始まったことや室町時代の文化の特色について、当時の出来事や武士の考え方と関連付けて考えることができる。
- 年表や読み物資料、地図、写真などの資料を活用して調べ、武士の政治や生活、文化の特色などをわかりやすく表現することができる。
- 武士による政治の始まりや、幕府が全国的に力をもってきたこと、武士や民衆の中から室町文化が生まれたことがわかる。

5 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ○源頼朝の働きや鎌倉武士の様子について進んで調べ、考えながら追求しようとしている。 ○室町時代の文化が自分たちの生活の中にも受け継がれていることに気づき、関心を深めることで歴史や伝統を文切にする心情をもとうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○源頼朝の働きや武士の政治のしくみの意味について問題意識をもち、学習の見通しをもって追究し、解決する。 ○室町時代の文化についてその背景や現代とのつながりを調べ自分なりの考えをもつことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○源頼朝の働きや武士の政治のしくみについての資料を調べ、まとめる。 ○金閣や銀閣などの建造物や水墨画、茶の湯などの室町時代の文化に関する資料を集め効果的に活用する。 ○調べた過程や結果を目的に応じた方法でわかりやすく表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○源頼朝の働きによって武士の政治が始まったことや武士の政治のしくみが分かる。 ○金閣や銀閣などの建造物や水墨画、茶の湯など室町時代に生まれた文化の多くが今の暮らしの中に受け継がれていることが分かる。

6 学習指導計画（10時間扱い）

時	目 標	学習内容・学習活動	博物館資料の活用
1	「貴族を守る武士」の絵図を、平安時代との相違点に注目しながら読み取り、気づいたことを話し合えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ○武士の登場について調べ、武士による政治や様子について興味をもつ。 <li style="border: 1px solid black; padding: 2px;">武士は、いつごろ、どのようにしてあらわれたらう。 ・「貴族を守る武士」の絵図を見て、気づいたことを発表し合う。 ○単元の学習計画について知る。 	
2	源頼朝の活躍を中心に鎌倉幕府が開かれるまでの経緯を調べ本小単元の学習問題を作ることができる	<ul style="list-style-type: none"> ○源平の合戦と鎌倉幕府の成立について調べ考える。 <li style="border: 1px solid black; padding: 2px;">源氏と平氏の戦いは、どんな戦いだっただらう。 ・源平の合戦について調べる。 ・戦いにはどんな意味があったのか考える 	<ul style="list-style-type: none"> ○川越館跡の展示物 ・武士の生活について

		<p>○本単元の学習問題を知る。</p> <p>鎌倉武士(御家人)になって、武士が力をもってきたころの政治や生活について考えてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをまとめる。 	
3 4	<p>当時の武士がどのようにくらしていたかを考える。</p>	<p>○鎌倉武士の生活について調べ考える。</p> <p>鎌倉武士の日常生活をさぐろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川越館跡の見学や展示物を見て、気付いたことや考えたことをノートにまとめる ・調べたことをもとに、話し合う。 ・分かったことや自分の考えをまとめる。 	
5	<p>鎌倉の地図やご恩と奉公の関係図などをもとにして、頼朝が武士たちをどのように従えていったのかを考えることができる。</p>	<p>○幕府の支配体制について調べ考える。</p> <p>源頼朝はどのようにして武士たちを従えたのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鎌倉幕府の政治について ・北条氏による政治と幕府の支配の拡大について知る。 ・自分の考えをまとめる。 	
6	<p>元寇の戦いで鎌倉幕府の力が弱まったことをとらえることができる。</p>	<p>○元との戦いについて調べ考える。</p> <p>元寇とは、どんな戦いだったのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元との戦いについて調べまとめる。 ・元との戦いは、幕府にとってどんな意味があったか考える。 ・自分の考えをまとめる。 	
7	<p>鎌倉時代の全体像について話し合う。</p>	<p>鎌倉時代は、どんな時代だったのだろう</p>	
8 9	<p>金閣や銀閣、書院造を中心に調べて、武士の中から新しい文化が生まれたことや今の生活とのつながりに気付くことができる。</p>	<p>○室町時代の文化について調べ考える。</p> <p>室町時代の文化をさぐろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鎌倉幕府が倒れて室町幕府ができたことを知る。 ・グループで調べ学習の計画を立て、内容を分担して調べる。 ・グループで調べたことを発表し合い、室町時代の文化の特色について考えまとめる。 ・各グループが発表した室町時代の文化の特色について、まとめる。 	
10		<p>○学習のふり返し</p> <p>○評価テスト</p>	

7 本時の学習指導

(1) 目標

○鎌倉武士（御家人）になって、武士が力をもってきたころの政治や生活について、当時、河越館に住んでいた人の生活を調べ学習し、自分の考えを深めることができる。

(2) 展開

学習内容・学習活動		○教師の働きかけ ☆評価
<p>1 本時の学習の内容を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 河越館周辺の絵図や展示物を通して、武士の生活を考えよう。 </div>		<p>○1 クラスをAとBの2グループに分けて学習を行う。</p> 
Aグループ (絵図を通しての学習)	Bグループ (展示物を通しての学習)	
<p>2 絵図をもとにゲストティーチャーの話聞く。 (1) ワークシートに聞いた内容をメモする。</p>	<p>2 遺跡をもとにゲストティーチャーの話聞く。 (1) ワークシートに聞いた内容をメモする。</p>	<p>○河越館の想像図や展示物をみせる。</p> 
<p>3 疑問に思ったことを質問する。 (1) ワークシートに聞いた内容をメモする。</p>	<p>3 疑問に思ったことを質問する。 (1) ワークシートに聞いた内容をメモする。</p>	<p>○教科書の武士の生活の図と比べさせる。</p> 
<p>4 本時の学習をまとめる (1) 河越館の武士の生活についてわかったことや自分の考えをワークシートにまとめる。</p> <p>(2) 感想発表</p>	<p>4 本時の学習をまとめる (1) 河越館の武士の生活についてわかったことや自分の考えをワークシートにまとめる。</p> <p>(2) 感想発表</p>	<p>○鎌倉武士の生活を思い出して、その違いに気づいたことに質問させる。</p>  <p>☆河越館の武士の生活が、特別な生活をしていたことがわかる。</p>
(展示物を通しての学習)	(絵図を通しての学習)	<p>・教室を移動する。</p> 
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center; margin: 10px 0;"> A・Bグループの学習が入れ替わる </div>		
<p>5 本時のまとめをする。</p>		

8 成果と課題

(1) 成 果

- 上戸小学校区内に現存する地域の中でも親しみのある歴史遺跡である河越館跡の展示資料を社会科の歴史の学習で使うことにより、武士が力がもった時代に関心をもち、武士による政治やくらしの様子、文化について進んで調べようとしていた。
- 上戸の地域の伝統や文化についての理解を深め、尊重する態度を育てることができた。
- 地図、展示物などの資料を活用して調べ、武士の政治や生活、文化の特色などをわかりやすく表現することができた。

(2) 課 題

- 河越館武士はその当時の一般的な武士の生活と違い、上級の武士だったので通り扱いを配慮する必要があった。
- 地域の歴史を学ぶ上で、郷土愛・愛校心を育てたいと願っていたが、学ぶ内容が高度ために、全体的な学習の定着を図ることが難しかった。
- 上戸小・鯨井中学校の社会科の年間計画作成において連携をとり、河越館の学習の位置づけができるとよい。
- 4年生では郷土を描く絵画の題材で、河越館の想像図を描かせた。上戸小の地の利を生かした年間計画が他教科でも作成できるように心がけていきたい。

新学習指導要領から	活用できる博物館資料	活用例
<p>第2 各分野の目標及び内容 〔歴史的分野〕</p> <p>(1) 歴史のとらえ方 ア 我が国の歴史上の人物や出来事などについて調べたり考えたりするなどの活動を通して時代の区分やその移り変わりに気付かせ、歴史を学ぶ意欲を高めるとともに、年代の表し方や時代区分についての基本的な内容を理解させる。</p> <p>イ 身近な地域の歴史を調べる活動を通して、地域への関心を高め、地域の具体的な事柄とのかかわりの中で我が国の歴史を理解させるとともに、受け継がれてきた伝統や文化への関心を高め、歴史の学び方を身に付けさせる。</p> <p>(2) 古代までの日本 ア …日本列島における農耕の広まりと生活の変化や当時の人々の信仰、大和朝廷による統一と東アジアとのかかわり…。</p> <p>ウ 仏教の伝来とその影響、仮名文字の成立などを通して、国際的な要素をもった文化が栄え後に文化の国風化が進んだことを理解させる。</p> <p>(3) 中世の日本 ア 鎌倉幕府の成立、南北朝の争乱と室町幕府、東アジアの国際関係、応仁の乱後の社会的な変動を通して、武家政治の特色を考えさせ、武士が台頭して武家政権が成立し、その支配が次第に全国に広まるとともに、東アジア世界との密接なかかわりがみられたことを理解させる。</p> <p>イ 農業など諸産業の発達、畿内を中心とした都市や農村における自治的な仕組みの成立、禅宗の文化的な影響などを通して、武家政治の展開や民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解させる。</p>	<p>○常設展示全体 ・小江戸川越（近世） ・近代都市川越の発展（近・現代） ・武士の活躍と川越(中世) ・川越のあけぼの（原始・古代）</p> <p>○取り上げる歴史的事象により、資料から選択する。 ・常設展示 ・ホームページの資料検索システムを活用 ・本丸御殿 ・蔵造り資料館 ・河越館跡史跡公園</p> <p>・丸木舟・弥生土器</p> <p>・埴輪・古墳とその出土品（馬具・武具・鏡・土器）</p> <p>・三十六歌仙額</p> <p>・河越氏と河越館跡 ・武蔵武士 ・鎌倉街道</p> <p>・板碑 ・仏像 ・河越千句</p>	<p>・中学校の歴史学習のはじめとして扱う。博物館のホームページの小中学生用ページの活用。展示室案内から時代区分ごとの川越の大まかなできごとをまとめさせる。</p> <p>・「江戸時代の川越の発展」（「小江戸川越」「民俗展示室川越まつり」の活用）を取り上げる。「政治」「産業」「文化」などの視点から、テーマを設定して調べ学習を行う。博物館見学を取り入れ、調べたことをまとめて発表させる。</p> <p>・縄文時代・弥生時代の人々の生活、我が国で国家が形成されていた様子について比較しながら調べてまとめる学習とする。</p> <p>・仮名文字の成立によって、文化の国風化が進んだ様子を身近な地域の資料をもとに調べてまとめる学習とする。</p> <p>・武士の台頭、武士政治の特色について、班で調べたりまとめたり、発表したりする。河越館跡、鎌倉街道などの現地見学を指導計画の中に取り入れる。</p> <p>・板碑や仏像などの学習を通して、中世における民衆の生活の中に仏教の影響が強く入り込んでいたことを学習する。レポート等にまとめることで表現力の向上を図る。</p>

(4) 近世の日本

ア 戦国の動乱、ヨーロッパ人
来航の背景とその影響、織田
豊臣による統一事業とその当
時の対外関係、武将や豪商な
どの生活文化の展開などを通
して、近世社会の基礎がつく
られていったことを理解させ
る。

イ 江戸幕府の成立と大名統制
鎖国政策、身分制度の確立及
び農村の様子、鎖国下の対外
関係などを通して、江戸幕府
の政治の特色を考えさせ、幕
府と藩による支配が確立した
ことを理解させる。

ウ 産業や交通の発達、教育の
普及と文化の広がりなどを通
して、町人文化が都市を中心
に形成されたことや、各地方
の生活文化が生まれたことを
理解させる。

エ 社会の変動や欧米諸国の接
近、幕府の政治改革、新しい
学問・思想の動きなどを通し
て、幕府の政治が次第に行き
詰まりをみせたことを理解さ
せる。

(5) 近代の日本と世界

イ 開国とその影響、富国強兵
殖産興業政策、文明開化など
を通して、新政府による改革
の特色を考えさせ、明治維新
によって近代国家の基礎が整
えられて人々の生活が大きく
変化したことを理解させる。

エ 我が国の産業革命、この時
期の国民生活の変化、学問・
教育・科学・芸術の発展など
を通して、我が国で近代産業
が発展し、近代文化が形成さ
れたことを理解させる。

(6) 現代の日本と世界

イ 高度経済成長、国際社会と
のかかわり、冷戦の終結など
を通して、我が国の経済や科
学技術が急速に発展して国民
の生活が向上し、国際社会に
おいて我が国の役割が大きく
なってきたことを理解させる。

・ 太田道灌と河越夜戦

・ 川越藩の支配
・ 喜多院、東照宮

・ 新田開発 ・ 江戸図屏風
・ 新河岸川の舟運
(ひらた船復元模型・上り
荷・下り荷など)
・ 川越まつり
・ 城下町川越 ・ 職人尽絵
・ 藩校、寺子屋
・ 武州一揆
・ 川越藩の海防

・ 高札
・ 埼玉県誕生
・ 地券

・ 渋沢栄一
・ 鉄道開通
・ 第八十五国立銀行
一円、五円紙幣
・ 川越唐棧

・ 電化製品
・ 日用品

・ 織田・豊臣による統一事業
と川越との関係を学習する。
身近な地域の資料を使って
調べたり、まとめたり、発
表したりする。

・ 川越藩と江戸幕府との関係
を学習することで、江戸幕
府の支配体制を学習する。
・ 農村の様子を身近な資料を
通して学習する。
・ 江戸幕府の政治の特色をレ
ポート等にまとめる。
・ 歴史のとらえ方の「身近な
地域の歴史学習」として、
江戸時代の城下町「川越」
を取り上げる。博物館見学
を取り入れた学習計画を作
成することとする。

・ 幕府政治が行き詰まり、幕
府の対外政策について、川
越藩の動きを調べさせるこ
とを通して、世界史的な背
景について気付かせる。

・ 明治新政府の政治について
課題を設定し、川越や埼玉
県の学習を通して調べたり
、まとめたり、発表したり
する。

・ 明治時代の川越について調
べることで、我が国の近代
文化について、調べたり、
まとめたり、発表したりす
る。

・ 戦後から高度経済成長期に
かけての家庭生活の変化に
ついて班ごとにテーマを決
めて学習する。調べたこと
をまとめ、発表する学習。

第2学年 社会科学習指導案（中）

1 中単元名 「産業や交通の発達と町人文化の形成」

2 中単元について

(1) 生徒観 ※略

(2) 教材観

大項目「歴史のとらえ方」は、「ア．我が国の歴史上の人物や出来事について調べたり考えたりするなどの活動」や「イ．身近な地域の歴史を調べる活動」、「ウ．学習した内容を活用してその時代を大観し表現する活動」からなる。「イ」においては、身近な地域の歴史を調べる活動を通して地域への関心を高め、地域の具体的な事柄とのかかわりの中で我が国の歴史を理解させるとともに、受け継がれてきた伝統や文化への関心を高め、歴史の学び方を身につけさせることにねらいがある。そして、取り上げるべき地域は、その地域への関心を育て、我が国の歴史により具体性と親近感を持つことができ、その理解を深めることができるものであることが求められる。従って、それにふさわしい歴史的事象や時代は地域によって異なるものであり、地域の特性に応じて歴史的事象や時代を取り上げるようにしなければならない。

そこで、近世において、江戸と強く結びついて発展してきた川越の歴史を調べ、江戸時代の産業や交通の発達について多面的・多角的に考察し、自分の考えをまとめたり、発表したりすることは、十分にねらいを達成するものと考えられる。川越の産業や町並み、衣食住、年中行事、祭礼などの調査学習を通して、現在との結びつきに気づかせ、受け継がれた伝統や文化の特色をとらえさせるような指導計画を構成した。

(3) 指導観

指導にあたっては、次の4点に留意して指導を行う。

- ①市立博物館、市立図書館などを活用する。
- ②文献類などを収集、整理する。
- ③地域における人材の活用を図る。
- ④我が国の歴史を理解させることにつながる歴史的事象を取り上げるようにする。

そのために、生徒の居住地域や学校所在地にある歴史教材（実物資料、史跡、地名など）を調査、整理しておくことが、大切である。また、生徒自らの「調べ学習」となるように資料の収集、実地調査の方法、レポートや新聞の作成方法などを指導し、歴史の学び方を身につけさせるようにする。さらには、人々の生活や生活に根ざした伝統や文化に着目し、関心を高められるように取り扱いを工夫する。そして、指導計画の作成にあたっては、地理的分野及び公民的分野との関連に配慮し、内容(2)「古代までの日本」以下とかかわらせて計画的に実施する。

3 研究主題とのかかわり

(1) 本中単元における新学習指導要領のかかわり

生徒の歴史に対する興味と関心を高めるために身近な地域の歴史や具体的な事象を取り上げた学習活動を工夫し、各時代の文化学習の充実を図る。

- ・川越の産業や町並み、衣食住、年中行事、祭礼などの調査学習を通して、現在との結びつきに気づかせ、受け継がれた伝統や文化の特色をとらえる。

(2) 博物館資料の活用

①資料名（展示コーナー名）

「江戸図屏風」「城下町模型」「新河岸川河岸場模型」「ひらた船」「上り荷・下り荷」
 「問屋印鑑」「干鰯仲間諸帳面」「榎本弥左衛門画像」「算額」 (近 世)

②活用の仕方

ア 自分の課題解決に応じた資料を探し、調査する。

イ キャプションの内容を考察し、新たな疑問等を解説員から聞き取り調査をしたり、文献資料から追調査したりする。

4 単元の目標

- 身近な地域における歴史的事象に関心のあるテーマで調査する学習を通して、我が国の歴史について理解させる。
- 身近な地域における具体的事象から、江戸時代と現代を考えさせる学習を通して、受け継がれてきた伝統や文化への関心を高めさせ、歴史の学び方を身につけさせる。
- 産業や交通の発達、教育の普及と文化の広がりなどを通して、町人文化が都市を中心に形成されたことや、各地方の生活文化が生まれたことを理解させる。

5 中単元の評価規準 ※略

6 中単元の指導計画（9時間扱い）

単元	時	学習内容・学習活動	・指導上の留意点 ◎評価 ●言語活動の充実
課題設定	第1～3時	1 川越の町並みの今と昔を比べる。 2 学習の内容を理解し、調査活動を設定する。 3 川越について調査計画を立てる。	・学習のねらいを理解させ、調査活動の見通しが持てるようガイダンスを行う。 ◎学習の見通しを持ち、これからの学習について調査計画を立てている。(関)
資料収集・追究	第4・5時	4 グループで現地調査等をし課題解決にせまる資料収集をする。 ・文化財調査 ・史跡調査 ・商店街調査 ・文献資料による調査 ・祭礼調査	・博物館や資料館職員等へのインタビュー等の活動を取り入れる。 ・外に出て活動することが困難な場合は、博物館職員等による出前授業も考えられる。 ◎調査する課題を明確にし、よく吟味して質問内容、資料の取舍選択等を考えている。(思) ●事前に課題解決にせまる質問内容をメモして、インタビューする。また、視点を明確にし、観察したり、見学したりした事象の差異点や共通点をとらえて記録する。
整理・表現	第6・7時	6 課題解決を図るため、グループ内で資料の内容を検討して調査したことをまとめる。 ・発表方法をグループ内で検討する。	・課題解決が図られるようにまとめさせる。 ・聞く側の立場を意識してまとめるよう配慮させる。 ◎調査した内容を他の人の考えや意見を取り入れるなどして、多面的・多角的に考察して、まと

	<ul style="list-style-type: none"> ・発表の役割を決める。 ・発表原稿を作成する。 ・作成した発表原稿をグループ内で検討する。 	めている。(思)(技) ●私たちが住んでいる町がかつてどのような地域だったのか、イメージがわくように、自分の言葉でまとめる。
第8・9時	8 グループごとに研究成果を発表する。 9 各グループの発表に対し、意見交換する。	<ul style="list-style-type: none"> ・新河岸川の舟運を中心に商業都市として発展してきた歴史や受け継がれてきた伝統や文化の特色がわかるように、写真やイラストなど資料を用いて発表させる。 ◎写真やイラストなどを用いて、川越市の歴史や文化がよくわかるように発表している。(技) ●聞く側がわかるように自分のことばで発表する

7 本時の学習指導(6/9時)

(1) 目標

○川越博物館の見学を通して、江戸時代の川越の商業や文化の発展について、調べ学習をもとにして話し合いながら自分の考えを深めることができる。

(2) 展開

学習内容・学習活動	○教師の働きかけ ☆評価 ◎博物館資料活用の視点
1 本時の学習内容を確認する。	
課題解決に向けて、調べたことをもとに話し合おう。	
2 博物館等の見学をもとに調べたことについてまとめる。 (1)各自で調べたことをワークシートにまとめる。 (2)各グループの課題について、自分の考えを発表できるようにする。	◎博物館等の展示について、課題解決に向けた視点で記録し、まとめている。 ○調べたことをもとにして、自分のことばでまとめさせる。 ☆自分のまとめたことをきちんと発表したり、他の発表をよく聞いて、記録している。(行動観察)
3 江戸時代の川越の商業や文化の発展について、各グループで設定した課題を解決するためにそれぞれ話し合いを行う。	○机間指導して、進行役の生徒へ助言する。 ☆江戸時代の川越の商業や文化の発展の様子について調べたことをもとに、意欲的に話し合い、課題解決に迫るまとめができたか。(行動観察・ワークシート)
4 グループごとに発表し合ったことをワークシートにまとめ、発表の準備をする。	○聞く側の立場に立って、わかりやすくまとめるよう助言する。
5 次時の学習について確認する。 ・発表の準備	

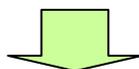
生活科

「どうぶつさがし」や「のりものさがし」をしながら、はくぶつかんをたんけんしよう

小中学校生活科学習指導要領改訂のポイント

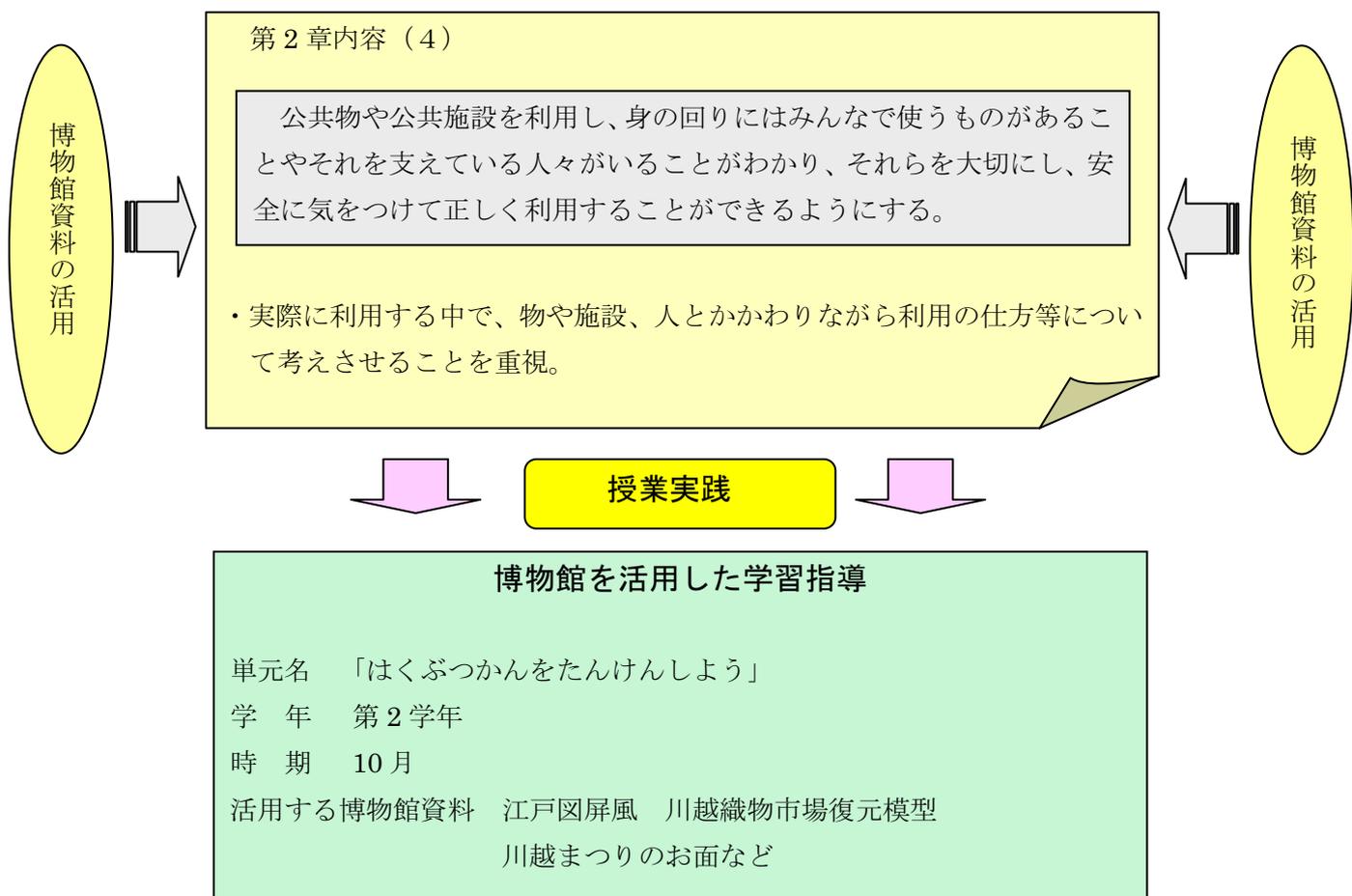
改訂の趣旨

- ・気付きをもとに考えたりすることなど、気付きを質的に高める観点から、活動や体験を一層充実するための学習活動を重視。
- ・児童を取り巻く環境の変化を考慮し、安全教育に関する内容を充実、自然の素晴らしさ、生命の尊さを実感する指導を充実。
- ・地域の出来事などを身近な人々と伝え合う活動を行い。人とかかわる楽しさが分かり、進んで交流できるようにする旨の内容事項を新設。



博物館を「実際に利用する中で、物や施設、人とかかわりながら、利用の仕方等について考えることを重視」という改訂の趣旨を生かし、実際に博物館を訪れて、展示物を活用した授業を行うことにより、研究主題に迫れると考えた。

《博物館の活用と新学習指導要領との関連のポイント》



新学習指導要領から	活用できる博物館資料	活用例
<p>第3章 第2節 生活科の内容（4） <u>公共物や公共施設を利用し、身の回りにはみんなでするものがあることやそれを支えている人々がいることなどが分かり、それらを大切に、安全に気を付けて正しく利用することができるようにする。</u></p> <p>第4章 1 指導計画作成上の配慮事項（1） 自分と地域の人々、社会及び自然とのかかわりが具体的に把握できるような学習活動を行うこととし、校外での活動を積極的に取り入れること。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>第4章 2 内容の取扱いについての配慮事項（2） 具体的な活動や体験を通して気付いたことを基に考えさせるため、見付ける、比べる、たとえるなどの多様な学習活動を工夫すること。</p> </div> <p>第3章 第2節 生活科の内容（3） 自分たちの生活は<u>地域で生活したり働いたりしている人々や様々な場所とかかわっていること</u>が分かり、それらに<u>親しみや愛着</u>をもち、人々と適切に接することや安全に生活することができるようにする。</p> <p>第3章 第2節 生活科の内容（5） 身近な自然を観察したり、季節や地域の行事にかかわる活動を行ったり<u>などして、四季の変化や季節によって生活の様子が変わること</u>に気付き、自分たちの生活を工夫したり楽しくしたりできるようにする。</p>	<p>電車やバスの利用 博物館・常設展示全体</p> <p>常設展示全体 博物館パンフレットを利用し、博物館の施設を見て回る。</p> <p>動物を題材にした資料 子どもを題材にした資料 乗り物を題材にした資料</p> <p>学芸員さん 受付の人 解説員さん</p> <p>お祭りのコーナー 植物を題材にした資料 食べ物の資料</p>	<p>○生活科 初めての博物館（入門） ～博物館ってどんなところ？</p> <p>① 博物館に行ってみよう！ 乗り物に乗って行く活動</p> <p>② 博物館には何があるのかな？ スタンプラリー式に博物館にある資料を探して回る。博物館の中を見る時のマナーや、博物館には色々なものがあることに気付かせる。</p> <p>③ 学習シートを活用し、資料の中から指定した写真や絵、物を探す。 *博物館で動物を探そう *博物館で昔の子どもたちを探そう *博物館で昔の乗り物を探そう *博物館で植物を探そう *博物館で働いている人を探そう *博物館でお祭りを探そう *博物館で昔の食べ物を探そう</p> <p>資料を見つけながら、博物館を回ることによって資料を隅々まで見て調べたり、問題に答えながら進むことで、資料への興味を持つ。また、見学のマナーを身につけられる。</p>
<p>第3章 第2節 生活科の内容（6） <u>身近な自然を利用したり、身近にある物を使った</u>りなどして、<u>遊びや遊びに使う物を工夫してつくり、その面白さや自然の不思議さに気付き、みんなで遊びを楽しむことができるようにする。</u></p>	<p>体験学習室 体験フィールド</p>	<p>④昔のおもちゃで遊ぼう 体験学習室にあるおもちゃで遊んでみよう（剣玉、こま、お手玉、おはじき、メンコ、ヨーヨー、ベーゴマ）</p> <p>⑤昔のおもちゃを作ってみよう （はたおり、竹とんぼ、こま、ぶんぶんごま、かぶと 鯉のぼり）</p>

~~~~~ 既存項目内での表現変更



新規追加項目

## 第2学年 生活科学習指導案（小）

1 単元名 「はくぶつかんをたんけんしよう」

2 単元について

(1) 児童観

本校の児童は、生活科の学習に意欲的に取り組み、毎時間の活動を楽しみにしている。小規模校のよさを生かし、学年全体で活動したり、一年生と一緒に活動したりして、親しみのある雰囲気の中で自分らしさを発揮しながら意欲的に活動している。

二年生になり「学校たんけんをしよう」の単元では、学年が一つ上がり、上級生になった喜びの気持ちを持ち、優しく一年生の手を取り学校案内をすることができた。「町たんけんをしよう」の単元では、児童が自らめあてを持ち、4、5人のグループで話し合い、学校から地域に出て探検活動をすることで、地域のよさを発見をしたり、積極的にグループ活動をしたりすることができた。活動から、地域の方とかわかることの楽しさも感じたようである。

公共施設の利用の観点からは、本校の周りには公共施設がほとんどなく、博物館に行ったことのある児童はあまりいない。博物館には何が展示してあるのかも知らない児童がほとんどである。夏季休業中に旅先で博物館に行ったことのあるという児童もいるかも知れないが、川越市立博物館の利用については遠いため利用したことはないという状況である。そのため、児童は、今回の博物館活用をとっても楽しみにしている。

(2) 教材観

本単元は、学習指導要領の内容（4）を受けて設定したものである。博物館は、多く文化財をわかりやすく展示し、川越の歴史や文化を紹介している公共施設である。展示物には、川越まつりのお面やさつまいもを使った芋せんべいの作り方などがあり、二年生でも興味を持ちながら見学できる。難しそうな資料からも、“動物”や“乗り物”など、身近な具体物を読み取ることができ、博物館の面白さを感じ取ることができる。日常、博物館には、多くの一般の人も見学している。その中で学習を進めたり、博物館の職員と関わりながら学習に取り組んだりすることによって、人との上手なかかわり方を身につけることができる教材である。

(3) 指導観

博物館には、2年生では理解しにくい解説や表現が多い。そこで、展示物そのものに視点を当て、子どもたちにとってわかりやすい「動物」や「乗り物」を探す活動を取り入れ、意欲的に活動できるようにしていきたい。また、公共施設である「博物館」を利用する上でのマナーや見学のルールについて事前に話し合い、そして、実際に見学活動をするを通して、安全で正しい使い方がわかるようにしていく。さらに、博物館はたくさんの人たちが利用していること、博物館で働く職員の方がいることに気づき、わからないことを質問したりして積極的に関わっていきたい。

本時では、実際に博物館を探検し、ものや人とのかかわりを通じて、博物館の楽しさを知らせたい。人とのかかわりとして、解説員の方には質問したらシールがもらえる等の工夫をし、楽しみながら関わりが持てるようにしていく。物とのかかわりを大切にするために「乗り物」「動物」の展示物探しは、興味関心別のグループ構成にし、自分たちの探したいテーマを中心に探検するようにした。グループごとに博物館でのマナーやルールを守り、安全に正しく利用ができるようにすることで生活科のねらいに迫っていきたい。さらに、わかったことや面白かったことなどを、友だちや家族に伝える活動を通して、今まで博物館の面白さやよさを知らなかった児童が、博物館に興味を持ち、また来たいと思ったり、博物館に愛着を持ったり、大切に利用したりする心を育てていきたい。社会科の学習でも博物館の利用をする機会があるので今後の学習や生活にも生かしていきたい。

＜ 研究 主 題 ＞

「博物館の常設展示を活用した授業づくり」

—新学習指導要領のねらいに迫る博物館資料の活用—



(1) 本単元における新学習指導要領のかかわり

○内容(4)

公共物や公共施設を利用し、身の回りにはみんなで使うものがあることやそれを支えている人々がいることなどがわかり、それらを大切に安全に気をつけて正しく利用することができるようにする。

- ・資料を大切に扱う態度を養う。
- ・施設利用時のマナーを正しく理解し実践の場での技能の習得を図る。
- ・実際に利用することが強調され、体験の中からの学ぶことを重視している。
- ・施設を繰り返し利用することで、態度等の技能の定着化を図る。

(2) 博物館資料の活用

○「展示資料」の活用

＜本時の活動で活用する展示資料＞

- |          |             |
|----------|-------------|
| 「動物」     | 「乗り物」       |
| ・天狐のお面   | ・荷車         |
| ・縄文カレンダー | ・織物市場模型     |
| ・馬形埴輪    | ・牛車         |
| ・江戸図屏風   | ・蒸気機関車      |
| ・引札      | ・新河岸川河岸場跡模型 |
| ・狸のお面 等  | ・丸木舟 等      |

○「ひと」の活用

- ・解説員による展示資料の説明
- ・解説員による調べ活動の支援

○「施設」の活用

- ・公共施設の正しい利用法の体得
- ・他の利用者への配慮等、公共心の育成



具  
体  
的  
な  
手  
だ  
て

- |                                                       |          |
|-------------------------------------------------------|----------|
| ①自分の体験をもとに、博物館を利用する際の約束や態度について話し合い<br>教室でシミュレーションを行う。 | (施設の活用)  |
| ②学習シートを用い、クイズ形式で展示品を探す。                               | (ものの活用)  |
| ・クイズが解けないときは、解説員に相談し、ヒントをもらう。                         | (ひとの活用)  |
| ・展示資料についての疑問点を解説員に聞き、情報を集める。                          | (ひとの活用)  |
| ・周囲に気を配り、博物館を利用する上での約束を守りながら探検する。                     | (施設の活用)  |
| ・解説員を活用した児童に対してシールを配り、評価の材料とする。                       |          |
| ③博物館で見つけたことや気づいたことをカードにまとめ、発表する。                      |          |
| ・友達同士で発表し合い、情報を共有する。                                  |          |
| ・博物館探検でわかったことを家族に紹介する。                                | (再利用の推進) |

#### 4 単元の目標

- 博物館を探検する活動を通して、地域で働く人々と適切に接することができるようにするとともに、マナーやルールを守って安全に利用できるようにする。

#### 5 単元の評価規準

| 生活への<br>関心・意欲・態度                                          | 活動や体験についての<br>思考・表現                                                               | 身近な環境や自分についての<br>気づき                                                 |
|-----------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------|
| ○博物館を探検する活動を通して、公共物や公共施設を正しく利用しようとしたり、人々と適切に接しようとしたりしている。 | ○公共施設を利用する上でのマナーやルールを考えることができる。<br>○博物館を探検して見つけたものや気づいたことを工夫して表現したり、伝えたりすることができる。 | ○博物館には昔の暮らしを知る興味深い資料があることに気付いている。<br>○博物館の利用の仕方を知りそこで働く人々の支えに気付いている。 |

#### 6 単元の指導計画（4時間扱い）

| ○小単元名 ●ねらい                                                                          | 学習内容・学習活動                                                                                     | 博物館資料の活用                                             |
|-------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------|
| ○はくぶつかんたんけん準備をしよう（1）<br>●博物館のことで知っていることを話し合ったり、探検計画や見学のマナーやルールについて話し合ったりし、関心意欲を高める。 | 1 博物館の見学のマナーやルールについて話し合う。<br>2 あいさつの仕方や質問の仕方を練習する。                                            | ○博物館マップ<br>○博物館の写真<br>○学習シート<br>・のりものさがし<br>・どうぶつさがし |
| ○はくぶつかんをたんけんしよう（1）・・・本時<br>●博物館探検を通して、解説員とかかわりながら、ルールやマナーを守って、楽しく活動することができる。        | 1 博物館をグループごとに探検しながら、学習シートの展示物を探す。<br>・わからないときは解説員さんに質問する。<br>・グループで協力しながら、マナーやルールを守って安全に探検する。 | ○博物館マップ<br>○学習シート<br>○展示物<br>○解説員さん                  |
| ○はくぶつかんで見つけたものを教え合おう（2）<br>●探検で見つけたことや気付いたことを表現し、友だちや家族に伝え合い、気付いたことを共感することができる。     | 1 見つけたものや気付いたことをふり返りながら「見つけたよカード」にまとめる。<br>2 発見したことを発表する。<br>・家の人にも伝える                        | ○博物館の写真<br>○学習シート                                    |



## 8 成果と課題

### (1) 成 果

- 公共の施設の活用で「博物館」を利用することは、展示物や施設などみんなで使うものがあることがわかり、さらにそれを支えている人（解説員等）と関わることができ、実際に利用することで公共のマナーが学べる素晴らしい素材であった。
- 公共の施設を利用することにより、ルールやマナーを実践的に学ぶことができた。
- 「動物」「乗り物」に視点をおいて展示資料を探す活動は、子どもたちの興味や関心を高めることができ、取り組みやすい実践であった。
- 学習シートにクイズを取り入れることにより、展示資料をただ探すだけでなく、資料を見て考える活動につながった。
- 解説員に質問する活動を取り入れたことにより、施設で働く人々との交流が持てた。

### (2) 課 題

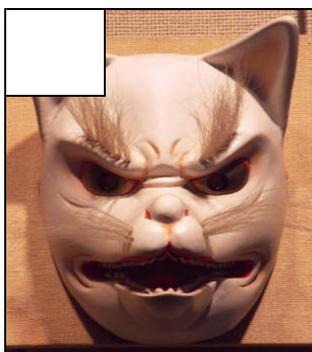
- 博物館での学習はとても効果的であったが、来館する交通手段の確保が難しい。年間指導計画や学校行事との関連を考慮し、博物館を活用した学習が特別なものではなく、恒常的に行えるような工夫が必要である。

9 学習カード

(1) 探検カード「動物編」

# はくぶつかんをたんけんしよう！ ～どうぶつさがし～

- ◆はくぶつかんの中には、いろいろなどうぶつがいます。しゃしんのどうぶつをさがしてみよう！
- ◆見つけたら、しゃしんの□に○をつけて、どうぶつクイズにこたえましょう。
- ◆はくぶつかん見学のルールとマナーをまもって、楽しくさがしてみよう！



1 わたしは、  
( )  
です。オスカメ  
スカ、どちらな  
のか、かいせつ  
いんさんに聞い  
てみよう。



2 わたしは  
( )  
をかついでい  
います。かつ  
いでいるもの  
の色は( )  
です。



3 わたしは、( )です。  
( )のまわりにかざられ  
ていました。



4 □の中にかくれているどうぶつは  
( )です。  
このえは、( )をしているよう  
すをあらわしています。

- ◆ほかにもどうぶつがたくさんいます。見つけたどうぶつを書いておこう。

|   |   |
|---|---|
| 5 | 6 |
| 7 | 8 |

(2) 探検カード「乗り物編」

# はくぶつかんをたんけんしよう！ ～のりものさがし～

- ◆はくぶつかんの中には、いろいろなのりものがあります。しゃしんののりものをさがしてみよう！
- ◆見つけたら、しゃしんの□に○をつけて、のりものクイズにこたえましょう。
- ◆はくぶつかん見学のルールとマナーをまもって、楽しくさがしてみよう！



①これは、( )です。  
こののりものが( )つあります。



②これは、( )です。  
どこのえきか、かいせついんさんに聞いてみよう。( )えき



③これは、( )です。  
( )がひいています。



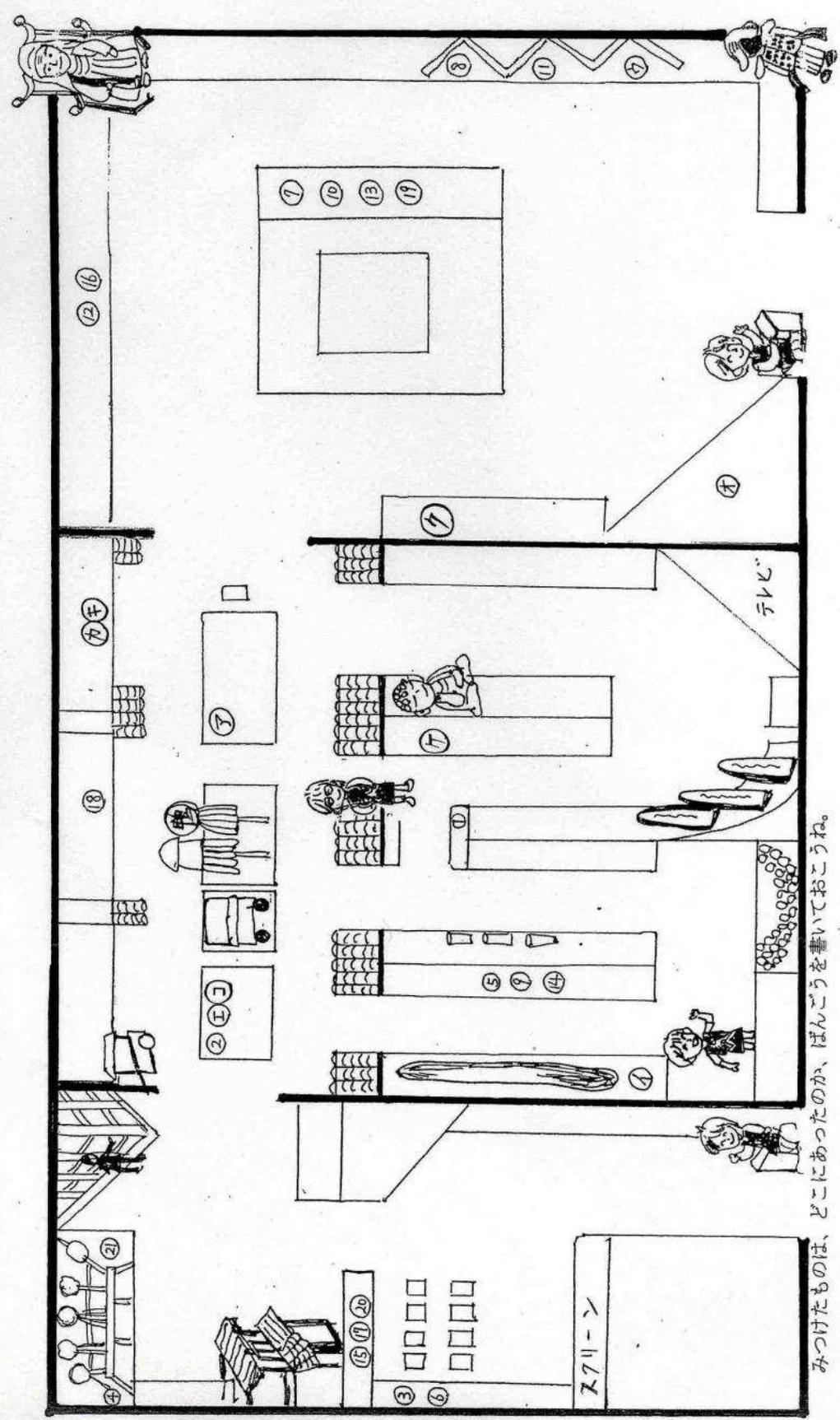
④これは、( )です。  
米だわらが( )このっています。

- ◆ほかにもどうぶつがたくさんいます。見つけたどうぶつを書いておこう。

|   |   |
|---|---|
| ⑤ | ⑥ |
| ⑦ | ⑧ |

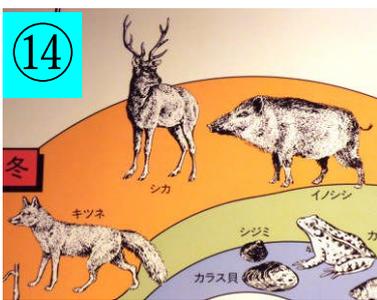
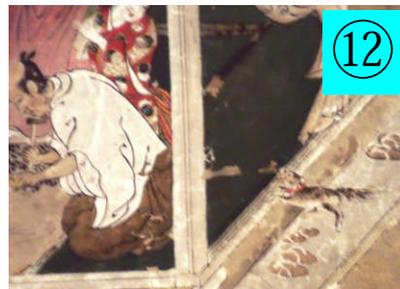
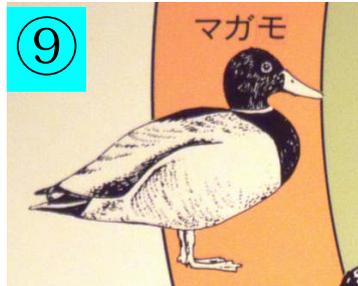
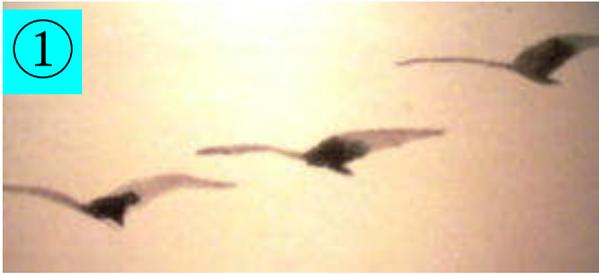
(3) 博物館マップ

はくぶつかんマップ  
どこで見つけたかな？

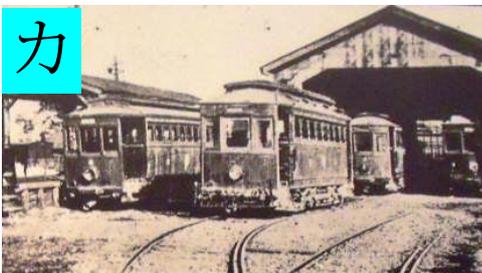
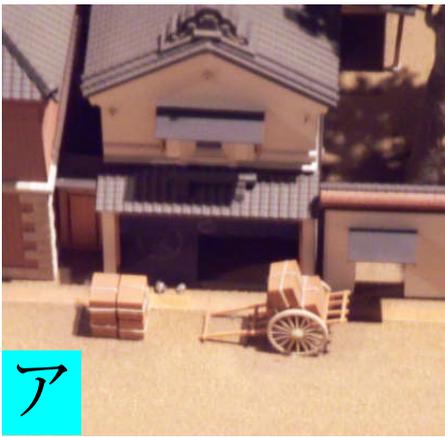


みつけたものは、どこにあったのか、ばんごうを書いておこうね。

生活科資料① 博物館探検で見つけれられる「動物」の例



生活科資料② 博物館探検で見つけられる「乗り物」の例



<資料③> 資料①②のキャプション名一覧

| 種別               | No | キャプション名      | 展示してある場所     |               |
|------------------|----|--------------|--------------|---------------|
|                  |    |              | 常設展示名        | コーナー名         |
| 【<br>「動物」編<br>】  | 1  | 三芳野の里        | 4. 川越のあけぼの   | (1) 三芳野の里かわごえ |
|                  | 2  | 川越織物市場復元模型   | 2. 近代都市川越の発展 | (3) 川越大火と蔵造り  |
|                  | 3  | 川越氷川神社本殿彫物   | 5. 川越の職人とまつり | (4) 川越まつり     |
|                  | 4  | 建前           | 5. 川越の職人とまつり | (1) 蔵造り       |
|                  | 5  | 縄文カレンダー      | 4. 川越のあけぼの   | (4) 知恵と生活     |
|                  | 6  | 川越氷川神社本殿彫物   | 5. 川越の職人とまつり | (4) 川越まつり     |
|                  | 7  | 三芳野天神縁起      | 1. 小江戸川越     | (2) 城下町川越     |
|                  | 8  | 江戸図屏風        | 1. 小江戸川越     | (1) 川越藩の成立と藩政 |
|                  | 9  | 縄文カレンダー      | 4. 川越のあけぼの   | (4) 知恵と生活     |
|                  | 10 | 三芳野天神縁起      | 1. 小江戸川越     | (2) 城下町川越     |
|                  | 11 | 江戸図屏風        | 1. 小江戸川越     | (1) 川越藩の成立と藩政 |
|                  | 12 | 紙本着色職人尽絵（左隻） | 1. 小江戸川越     | (3) 文化の栄え     |
|                  | 13 | 三芳野天神縁起      | 1. 小江戸川越     | (2) 城下町川越     |
|                  | 14 | 縄文カレンダー      | 4. 川越のあけぼの   | (4) 知恵と生活     |
|                  | 15 | 川越まつり        | 5. 川越の職人とまつり | (4) 川越まつり     |
|                  | 16 | 紙本着色職人尽絵（左隻） | 1. 小江戸川越     | (3) 文化の栄え     |
|                  | 17 | 川越まつり        | 5. 川越の職人とまつり | (4) 川越まつり     |
|                  | 18 | 引札           | 2. 近代都市川越の発展 | (1) 近代都市川越への道 |
|                  | 19 | 三芳野天神縁起      | 1. 小江戸川越     | (2) 城下町川越     |
|                  | 20 | 川越まつり        | 5. 川越の職人とまつり | (4) 川越まつり     |
|                  | 21 | 建前           | 5. 川越の職人とまつり | (1) 蔵造り       |
| 【<br>「乗り物」編<br>】 | ア  | 蔵造りの町並み復元模型  | 2. 近代都市川越の発展 | (3) 川越大火と蔵造り  |
|                  | イ  | 川漁の人々        | 4. 川越のあけぼの   | (4) 知恵と生活     |
|                  | ウ  | 江戸図屏風        | 1. 小江戸川越     | (1) 川越藩の成立と藩政 |
|                  | エ  | 川越織物市場復元模型   | 2. 近代都市川越の発展 | (3) 川越大火と蔵造り  |
|                  | オ  | 上・下新河岸と牛子川岸  | 1. 小江戸川越     | (6) 新河岸川の舟運   |
|                  | カ  | 川越電気鉄道       | 2. 近代都市川越の発展 | (1) 近代都市川越への道 |
|                  | キ  | 川越鉄道         | 2. 近代都市川越の発展 | (1) 近代都市川越への道 |
|                  | ク  | 米船渡来旧諸藩土固之図  | 1. 小江戸川越     | (5) 幕末社会と川越   |
|                  | ケ  | 紙本着色平治物語絵巻   | 3. 武士の活躍と河越  | (3) 河越氏と武蔵武士  |
|                  | コ  | 川越織物市場復元模型   | 2. 近代都市川越の発展 | (3) 川越大火と蔵造り  |

## 英語科

「蔵造り、川越まつり、川越に縁のある人物の写真」の活用

## 小学校外国語活動中学校英語科学習指導要領改訂のポイント

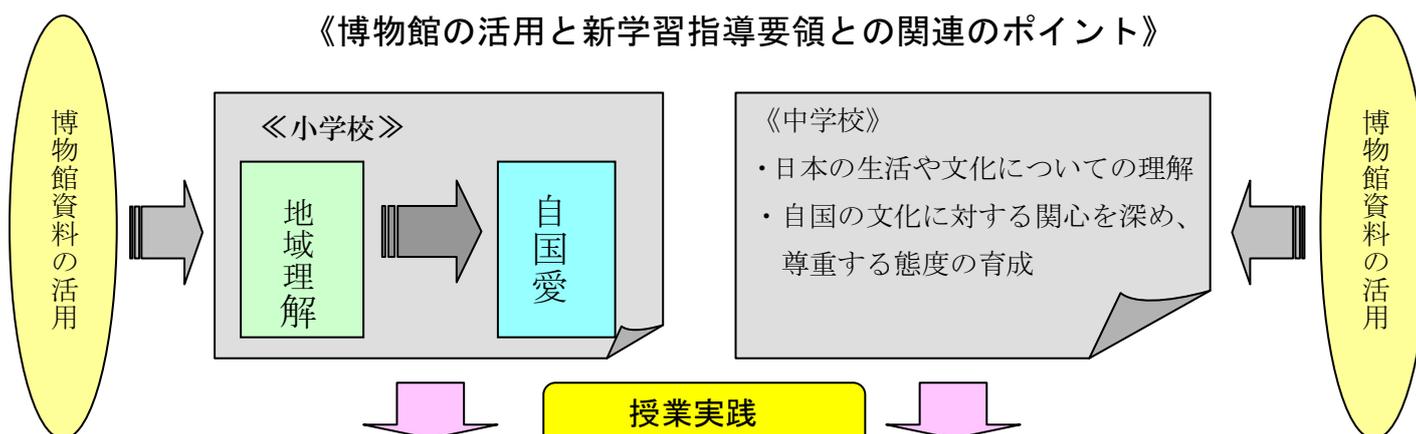
## 改訂の趣旨

《小学校》中・高等学校においてコミュニケーション能力を育成するための素地作り  
 《中学校》実際のコミュニケーションを目的とした英語の運用能力の育成

| 小学校                                                                                                                                | 共通                                                                           | 中学生                                                                                                                    |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・言語や文化について体験的な理解</li> <li>・積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度</li> <li>・外国語の音声や基本的な表現への慣れ親しみ</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・発信力の育成を重視</li> <li>・4技能の総合的な育成</li> <li>・コミュニケーションの内容を充実させるための語数の充実</li> </ul> |

博物館の常設展示を活用することで、自分たちの住んでいる地域(川越)について理解を深められる。さらには、我が国の生活や文化についての理解につながり、自国を愛する児童生徒の育成につながると考える。

## 《博物館の活用と新学習指導要領との関連のポイント》



## 博物館を活用した学習指導

## —小学校—

単元名 Lesson 7 『クイズ大会をしよう』

学年 第5学年

時期 11月頃

活用する博物館資料

蔵造りの建物、川越まつりの写真

## 博物館を活用した学習指導

## —中学校—

単元名 Program 7 『A Day at the Rodeo』

学年 第1学年

時期 11月

活用する博物館資料

縄文時代の展示資料

赤沢仁兵衛・天海・川越まつりの写真

## 博物館の活用と新学習指導要領との関連

小学校 英語活動

| 新学習指導要領から                                                                                                                               | 活用できる博物館資料                    | 活用例                                                                                                                  |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p><b>第2章2 内容(3)言語と文化に関する事項 (2)</b></p> <p>日本と外国との生活、習慣、行事などの違いを知り、多様なものの見方や考え方があることに気付くこと。</p>                                         | <p>川越まつりの写真<br/>蔵造りの建物の写真</p> | <p>英語ノート1 Lesson 7「クイズ大会をしよう」でクイズ大会のまとめとして教師から博物館資料を題材にしてクイズを出題する。博物館資料に簡単な説明を加えて、地域に対する理解を深め、自国愛につなげる。</p>          |
| <p><b>3 指導計画の作成と内容の取扱い 1 (4)</b></p> <p>指導内容や活動については、児童の興味・関心に合ったものとし、国語科、音楽科、図画工作科などの他教科等で児童が学習したことを活用するなどの工夫により、指導の効果を高めるようにすること。</p> | <p>博物館のパンフレット</p>             | <p>6年国語科「ガイドブックを作ろう」ガイドブックのうちの1ページを写真または、絵、図表だけのページにする。国語科と関連させて、その1ページを相手に見せながら、これまでに習った簡単な英語を使って博物館を紹介する活動を行う。</p> |

## 第5学年 外国語活動学習指導案（小）

### 1 単元名 「LESSON7 クイズ大会をしよう」

### 2 単元について

#### (1) 単元の内容

##### ①コミュニケーションに関する事項

- ア 外国語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験すること。
- イ 積極的に外国語を聞いたり、話したりすること。
- ウ 言語を用いてコミュニケーションを図ることの大切さを知ること。

##### ②言語と文化に関する事項

- ア 外国語の音声やリズムなどに慣れ親しむとともに、日本語との違いを知り、言葉の面白さや豊かさに気づくこと。
- イ 日本と外国との生活、習慣、行事などの違いを知り、多様なものの見方や考え方があることに気づくこと。
- ウ 異なる文化をもつ人々との交流を体験し、文化等に対する理解を深めること。

#### (2) 児童観

来年度から英語活動は、5、6年生において完全実施となるが、本校では、すでに、AETの訪問に合わせ、週1回の英語活動を行っている。5年生では、「英語ノート1」を使い、ゲームやインタビューの活動をしている。1学期末のアンケートでは、英語活動を楽しんでいる児童は72.5%だった。英語の音をまねて発音したり、進んで英語を話したり聞いたりできたと感じている児童は多いが、「できるだけ多くの友達にインタビューすること」や「いろいろな国の文化や言語に興味を持つこと」には、消極的な児童もおり、友人関係の固定化や新しいことを知ることに楽しさの経験不足などが理由として考えられる。

川越まつりや蔵造りの町並みは、児童にとって身近なものであるが、さらに深く地域や文化について詳しく知ることに関心を持たせたい。そして、今回の授業をきっかけに自分たちが暮らす地域についての深い理解と郷土を誇りに思う気持ちを育てていきたいと考える。

#### (3) 教材観

本単元は、“What's this?”を自然な形で使う場面として「シルエット・クイズ」や「ブラック・ボックス・クイズ」などのクイズを出し合う活動を通して、コミュニケーションを図る楽しさを体験させていく。これらのクイズは、視覚や触覚などの情報がヒントとなるため、パターン・プラクティスやダイアログなどのスキル向上が目標ではなく、児童は“What's this?”と言うだけでよい。

このことから、外国語を初めて学習することに配慮し、児童に身近で基本的な表現を使いながら、外国語に慣れ親しむ活動や、児童の日常生活や学校生活に関わる活動を中心に、友達とのかかわりを大切にした体験的なコミュニケーション活動を行える単元である。

#### (4) 指導観

外国語でのコミュニケーションを体験させるに当たり、

- ①コミュニケーションの場面
- ②児童の身近な暮らしにかかわる場面
- ③コミュニケーションの働き

の事項について学習活動を展開していく。また、外国語でも日本語でも同じ言い方をしている言葉のおもしろさを児童に気づかせ、外国の文化のみならず、日本の文化や風習、伝統を知る時間を設け、多様な文化の存在についての理解を深められるようにしたい。

### 3 研究主題とのかかわり

#### (1) 本單元における新学習指導要領のかかわり

日本と外国との生活、習慣、行事等の違いを知り、多様なものの見方や考え方があることに気づくこと

- ・博物館を活用し、地域についての知識を深める（自己理解）ことにより、異文化を認め、知ること（他者理解）につながる。

#### (2) 博物館の資料活用

##### ①資料名（展示コーナー名）

「川越まつり」 （民 俗）

「蔵造りの町並み」 （近・現代）

##### ②活用の仕方

- ア クイズの素材として「川越まつり」や「蔵造りの町並み」に関する内容を取り上げる
- イ 実際の資料でクイズの答えを確認する

### 4 単元の目標

- 外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。

### 5 単元の評価規準

|   | コミュニケーションを図ろうとする態度 | 外国語の基本的な表現                                                       | 言語や文化についての体験的な理解                     |
|---|--------------------|------------------------------------------------------------------|--------------------------------------|
| A | ・意欲的に体験的な活動ができる。   | 「What's this ?」<br>「It's ~ .」<br>・発音・イントネーションに気をつけながら、出題と解答ができる。 | ・資料を活用して出題、解答ができる。<br>・クイズを作ることができる。 |
| B | ・体験的な活動ができる。       | ・出題と解答ができる。                                                      | ・例示を参考にし出題と解答ができる。                   |
| C | ・活動ができない。          | ・出題と解答ができない。                                                     | ・例示を参考にすることができない。                    |

6 学習指導計画（4時間扱い）

| 時       | ○小单元名 ●目 標                                            | 学習内容・学習活動                      | 博物館資料の活用                                             |
|---------|-------------------------------------------------------|--------------------------------|------------------------------------------------------|
| 1       | 略                                                     | 略                              | 略                                                    |
| 2       | 略                                                     | 略                              | 略                                                    |
| 3       | 略                                                     | 略                              | 略                                                    |
| 4<br>本時 | ○クイズ大会をしよう<br>●クイズ大会を通して、<br>自分たちの住む地域について知り、郷土愛を育てる。 | ①クイズの作成<br>②クイズ大会<br>③教師からのクイズ | ○蔵造り<br>・蔵造りの建物が建った理由<br>・現在の棟数<br>○川越まつり<br>・様子 ・歴史 |

7 本時の学習指導（4／4時間）

(1) 目 標

○“What's this?”を使って尋ねるクイズを作り、互いに尋ねたり答えたりしながらクイズ大会をする。

○地域の伝統や文化について関心をもつ。

(2) 展 開

| 学習内容・学習活動                                                                                 | ○教師の働きかけ<br>・指導上の留意点                                                             | ◎博物館資料活用の視点<br>☆評 価             |
|-------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------|
| 1 あいさつをする。<br>C: Hello<br>T: Hello, how are you?<br>C: I'm fine.<br>(happy・hungry・sleepy) | ○英語を学習する気持ちづくりとなるように楽しい雰囲気をつくる。                                                  | ☆元気よく目を合わせて挨拶できている。(行動観察)       |
| 2 あいさつゲームをする<br>3 本時の学習内容について確認する。<br>・What's this?<br>・It's ~.                           | ○きき方、答え方の練習をする。<br>1 教師の後に繰り返す。<br>2 クラスを半分に分けて掛け合い。<br>3 リズムに合わせて<br>4 クイズを出題する | ☆イントネーションや音に注意しながら発音している。(行動観察) |
| 4 グループごとにクイズを作る。                                                                          | ○なるべく英語で答えられるようなものを条件にクイズ(シルエットクイズ)を作らせる。                                        | ☆グループで協力してクイズを作成する。(行動観察)       |

|                                                                           |                                           |                                                                 |
|---------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|
| <p>5 クイズ大会をする。<br/>・前半グループ・・・出題<br/>・後半グループ・・・解答<br/>(時間で交代)</p>          | <p>○クイズ大会のやり方を説明する。</p>                   | <p>☆“ What's this ?” という表現を使い、相手に質問したり、答えたりしている。<br/>(行動観察)</p> |
| <p>6 地域について知る。</p>                                                        | <p>○教師側から出題する。<br/>○撮影してある写真を使って出題する。</p> | <p>◎「蔵造りの建物」<br/>①写真を見せてクイズとして出題する。</p>                         |
| <p>7 振り返りをする。</p>                                                         | <p>○振り返りカードに記入する。</p>                     | <p>②答えが出たら、簡単な説明をする。</p>                                        |
| <p>8 あいさつをする。<br/>・That's all for today.<br/>・Good bye.<br/>・See you.</p> |                                           | <p>◎「川越まつり」<br/>・同上</p>                                         |

## 8 成果と課題

### (1) 成果

- 今回の授業を通して、「蔵造りの町並み」や「川越まつり」についての理解が深まることにより、地域への誇りを持つことにつながった。
- 今回授業を行ったのは、本校のうちのほんの一部の児童であったが、彼らは確実に、川越まつりの意味を知り、蔵造りが川越に多く残っている理由を知ることができた。そして、それについてもっと知りたいと思えば、調べられる方法があることも知った。それらを「知らない子」と「知っている子」では、それは小さなことかもしれないが、地域への誇りや愛情になっていくだろう。そのきっかけづくりとしての役割を担えたのではないかと思っている。

### (2) 課題

- 担当者だけでなく、他の職員にも早い段階から関わってもらえるような計画をたてることにより、さらに教育的効果が期待できると考える。

| 新学習指導要領から                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 活用できる博物館資料                                                                                                                                                                  | 活用例                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>第2章第1節1目標の解説</p> <p>外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。</p> <p>第1節 2 内容</p> <p>(1) 言語活動</p> <p>ア. 聞くこと</p> <p>(オ) まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を適切に聞き取ること。</p> <p>イ. 話すこと</p> <p>(オ) 与えられたテーマについて簡単なスピーチをすること。</p> <p>ウ. 読むこと</p> <p>(ウ) 物語のあらすじや説明文の大切な部分などを正確に読み取ること。</p> <p>エ. 書くこと</p> <p>(ウ) 聞いたり読んだりしたことについてメモをとったり、感想、賛否やその理由を書いたりなどすること。</p> <p>(I) 身近な場面における出来事や体験したことなどについて、自分の考えや気持ちなどを書くこと。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 川越の原始・古代<br/>(土器・埴輪など)</li> <li>・ 川越まつり</li> <li>・ 蔵造り</li> <li>・ 天海僧正</li> <li>・ 太田道灌</li> <li>・ 赤沢仁兵衛</li> <li>・ 昔の遊び</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 郷土川越の文化や歴史についての理解を深める。</li> <li>○ 英語による展示物についての説明を聞き、要点をメモする。</li> <li>○ 展示物について問答する。</li> <li>○ メモを基に川越を紹介する英文を書き、発表する。</li> </ul> <p>《おもな言語材料》</p> <p>【1年生】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3単現の文</li> <li>・ What ～? の文</li> <li>・ Who ～? の文</li> <li>・ Where ～の文?</li> <li>・ 一般動詞の過去形</li> </ul> <p>【2年生】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一般動詞の不規則変化</li> <li>・ There 構文</li> <li>・ be going to</li> <li>・ 不定詞</li> </ul> <p>【3年生】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 受動態</li> <li>・ 現在完了形</li> <li>・ 過去分詞の形容詞的用法</li> </ul> |

# 第1学年 英語科学習指導案（中）

1 単元名 「Program 7 A Day at the Rodeo (Sunshine English Course 1)」

2 単元について

(1) 生徒観

本校の1年生は、全体的に明るく、授業規律も定着しており、落ち着いて授業に取り組んでいる。英語に対する興味・関心が高く、英会話やインフォメーション・ギャップ・アクティビティなどのオーラルによる活動には意欲的に取り組む。しかし、英語を読んだり書いたりする文字を用いた活動には個人差があり、集中が長続きしない生徒もいる。視覚・聴覚に訴える教材を用いて意欲を喚起し、わかりやすく、基礎・基本の定着を図る授業の展開を心がけたい。

(2) 教材観

本課は、由紀がアンディの叔父がいるTacomaに滞在し、カウンティフェアに参加する内容である。農業祭やロデオなどのアメリカ文化は生徒の興味関心をひく内容である。本課のねらいは、一般動詞の過去形を用いた平叙文、否定文、疑問文の各種表現の仕方を学び、自分や相手の過去にしたことについて述べたり質問できたりすることである。一般動詞の過去形を学ぶことで会話の内容も広がり、コミュニケーション活動を多く取り入れることができる。

(3) 指導観

本課では、一般動詞過去形の平叙文、疑問文とその答え方、「How long」を組み込んだ形を学ぶ。これらの言語材料を用いて、身近な事柄について情報を聞き取ったり表現したりできるようにインタビューなどのコミュニケーション活動を多く取り入れたい。さらに、郷土川越の文化や歴史について、まとまった内容の英文を聞いたり読んだりしてまとめる活動を取り入れることで、オーラルによる会話だけでなく、4技能の総合的な育成を図りたい。

3 研究主題との関わり

(1) 本単元における新学習指導要領の関わり

教材は、…(略)…日本人の日常生活、風俗習慣、物語、地理、歴史、伝統文化や自然科学などに関するものの中から、生徒の発達の段階及び興味・関心に即して適切な題材を変化をもたせて取り上げるものとし、…

・川越まつりや川越に縁のある人物について学習することを通して、自国の文化に対する関心を深める。

(2) 博物館資料の活用

①資料名

「川越まつり」（民俗）

「縄文時代の川越」（原始・古代）

「天海と喜多院・東照宮」（近世）

「さつまいも栽培と赤沢仁兵衛」（近・現代）

②活用の仕方

ア 川越の文化や歴史、縁のある人物についての英文を聞き、メモをとる。

イ メモを参考に縄文時代、赤沢仁兵衛、天海僧正、川越祭りについての英文を読み、空欄を補充する。

ウ 上記イで学んだ英文を音読する。

#### 4 単元の目標

- 一般動詞の過去形を用い、自分がしたことについて話したり、尋ねたりすることができる。
- 郷土川越についての関心を高め、その歴史や文化について理解を深める。

#### 5 単元の評価規準と学習指導計画（6時間扱い）

| 時 | 学習内容・学習活動                            | 評 価 規 準                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                            |
|---|--------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|   |                                      | コミュニケーションへの関心意欲                                                                                                                                                | 理解・表現の能力                                                                                                                                                                                               | 言語や文化についての知識・理解<br>★博物館資料の活用                                                                                                                                               |
| 1 | 過去形の理解・運用<br>§ 1 の内容理解               | <ul style="list-style-type: none"> <li>○既習及び新出事項を理解し、積極的に表現活動に生かそうとしている。</li> <li>○川越の歴史や文化について積極的に学ぼうとしている</li> <li>○十分な声量で相手に意味が伝わるように音読しようとしている。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○一般動詞の過去形を用い、</li> <li>①自分がしたことについて話したり、尋ねたりすることができる。</li> <li>②川越の文化・歴史について英文を聞いて内容を理解することができる。</li> <li>○ How long di d～? を理解し、身近なことについて問答することができる</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○一般動詞の過去形の規則変化と助動詞di dの使い方を理解している。</li> <li>○アメリカのカウンティフェアについて理解している。</li> <li>★川越まつりや、川越に縁のある人物について理解を深め郷土川越について関心を高める。</li> </ul> |
| 2 | 過去形を運用し、川越の文化・歴史についての英文の音読と理解        |                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                            |
| 3 | 一般動詞過去形の疑問文の理解・運用、<br>§ 2 の内容理解      |                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                            |
| 4 | How long di d～? の理解・運用               |                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                            |
| 5 | § 3 の内容理解、音読                         |                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                            |
| 6 | Let's Communi cate<br>とProgram 7のまとめ |                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                            |

#### 6 本時の学習指導（2／6時）

##### (1) 目 標

- 一般動詞の過去形を使って、まとまった内容の英語を聞いたり読んだりして概要をつかむことができる。
- 川越について関心を高め、課題に積極的に取り組むことができる。



|                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                              |
|--------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------|
|                    | <p>Kawagoe Matsuri.<br/>It has a long history.<br/>It started in 1648.</p> <p>(2) メモした内容を確認する。<br/>(3) 英文を書くときに用いられる一般動詞の過去形および過去を表す表現を確認する。<br/>lived/studied/worked for/years ago<br/>(4) メモを参考に縄文時代、赤沢仁兵衛、天海僧正、川越まつりについての英文を読み、空欄を補充する。<br/>(5) 答えを確認する。<br/>(6) ①～④の英文を音読する。《一斉/個別》</p> <p>①Jomon people ( ) in Kawagoe about 10,000 years ago.<br/>②Akazawa Nihei studied about ( ).<br/>③Tenkai worked for ( ).<br/>④Kawagoe Matsuri started in ( ).</p> | <p>○積極的に取り組めるよう、個別指導をする。</p> |
| <p>整理<br/>(5分)</p> | <p>・写真を見て、それについての英文を言う。<br/>・次回の予告とあいさつ</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | <p>☆今日学習した英文が言えるか</p>        |

### (3) 評価

- 一般動詞の過去形を使って、まとまった内容の英語を聞いたり読んだりして概要をつかむことができたか。
- 川越について関心を高め、課題に積極的に取り組むことができたか。

## 7 成果と課題

### (1) 成果

- この授業を通して、英語で日本のことを学ぶことに新鮮さを感じ、意欲を持って前向きに取り組む生徒が多かった。このことから、本時の目標の一つである『川越について関心を高め、課題に積極的に取り組む』という目標は達成できた。
- ほとんどの生徒が博物館を訪れ調査していく中で、さらに詳しく追究したいと思うようになった生徒が増えたことも大きな成果である。

### (2) 課題

- ふだんの日常会話におけるコミュニケーション活動中心の授業から一変して、歴史や文化といった非日常的な題材を英語を通して見聞きするという一方で、語彙が少ない1年生にとっては負担が大きく、授業がむずかしいと感じた生徒が多かった。
- 1年生の語彙と言語材料では、博物館の展示品について英語で問答することはかなりむずかしいと判断し、今回は『聞いたり読んだりして理解する』ことに重点を置いた。4技能の総合的な育成という面から考えると、川越について英語で問答したり説明する(発信する)力をつけるためには、3年間を見通した指導計画の作成が必要である。

## 音楽科

「川越まつりコーナー」や「水琴窟」の活用

## 小中学校音楽科学習指導要領改訂のポイント

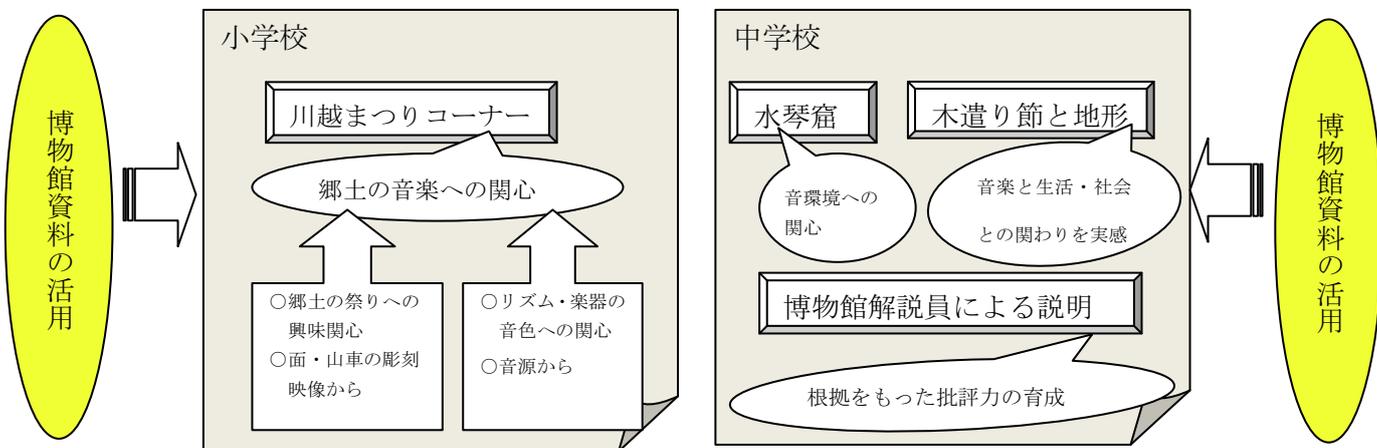
改訂の趣旨

- ・ 思考力・判断力・言語活動へつながる表現力の充実
- ・ 創意工夫を活かした音楽表現の重視
- ・ [共通事項]が生み出す特質や雰囲気感受

| 小学校                                                                               | 共 通                                                                                                   | 中学校                                                                                          |
|-----------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音楽づくりの充実</li> <li>・ 鑑賞教材選択の改善</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目標及び内容の構成</li> <li>・ 歌唱共通教材の充実</li> <li>・ 言語活動の充実</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ [共通事項]の新設</li> <li>・ 我が国の音楽の充実</li> </ul>           |
|                                                                                   |                                                                                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 創作活動での体験の重視</li> <li>・ 鑑賞指導における主体的な活動の重視</li> </ul> |

常設展示資料の「川越まつりのお囃子」や「木遣り節の調子」「水琴窟の音色」などを授業の中で活用することを通して、日本の伝統的な音楽の旋律や響きの特徴を感じ取らせ、曲想を味わったり、表情豊かな表現を工夫したりする活動を進める。

## 《博物館の活用と新学習指導要領との関連のポイント》



## 授業実践

博物館を活用した学習指導

## —小学校—

題材名 日本の音楽に親しもう

学年 第4学年

時期 9～10月

活用する博物館資料

川越まつりコーナー

博物館を活用した学習指導

## —中学校—

題材名 小江戸川越音楽内

学年 第1学年

時期 11月

活用する博物館資料

水琴窟・木遣り節・川越まつりコーナー

| 新学習指導要領から                                                                                                                                                                                                                         | 活用できる博物館資料                                                                      | 活 用 例                                                                                                                                                                                                                                       |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>第2 各学年の目標及び内容<br/>[第3学年及び第4学年]<br/>内容A表現(2)ウ<br/>音色に気を付けて旋律楽器及び打楽器を演奏すること。<br/>・打楽器については、(中略)和太鼓などの和楽器や諸外国に伝わる打楽器を学習内容に応じて適切に取り扱い、我が国の音楽や郷土の音楽、諸外国の音楽に対する関心を高めるようにすることが重要である。</p>                                              | <p>まつりコーナー</p> <p>面<br/>山車の彫刻<br/>映像</p> <p>・ふるさとのまつりコーナー</p>                   | <p>4年<br/>日本の音楽に親しもう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各地に伝わる音楽に関心を持つ。</li> <li>・神田囃子と川越まつりのお囃子の聴き比べをし、郷土の祭りへの興味・関心を高める。</li> <li>・お囃子の聞き比べをすることで使われている楽器への興味関心を高める。</li> <li>・「こきりこぶし」<br/>締太鼓や鈴、ささら、こきりこなどを入れて合奏唱する。</li> </ul> |
| <p>第2 各学年の目標及び内容<br/>[第5学年及び第6学年]<br/>内容A表現(2)ウ<br/>楽器の選択に当たっては、中学年までに経験した楽器を含めて・・・(中略)。その際、我が国の音楽や郷土の音楽、諸外国の音楽に対する関心を一層高めるよう配慮する</p> <p>内容B鑑賞(2)ア<br/>和楽器の音楽を含めた我が国の音楽や諸外国の音楽など文化との関わりを感じ取りやすい音楽、人々に長く親しまれている音楽など、いろいろな種類の楽曲</p> | <p>・川越まつりコーナー</p> <p>面<br/>山車の彫刻<br/>博物館貸し出し可能な締太鼓、和太鼓<br/>映像</p> <p>・ビデオ資料</p> | <p>5年<br/>アジアの音楽に親しもう<br/>(関連) かがやき(総合)<br/>「わたしたち地球人」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生を招いて文化交流をする。留学生と一緒に和太鼓のリズムを楽しむ。</li> <li>・お囃子のビデオなどを参考に、和太鼓のリズムを考えたり、ふしづくりをしたりしてお囃子づくりをする</li> <li>・お囃子の発表会をする。</li> </ul>            |

## 第4学年 音楽科学習指導案（小）

1 題材名 「日本の音楽に親しもう」

2 題材について

(1) 児童観

本校の児童は、明るく元気に満ちあふれており、身体を動かすのが大好きである。運動会での「キッズソーラン」にも嬉々として取り組んでいた。第4学年となり、音楽朝会でもソプラノパートのリーダーとして低学年の手本になろうと張り切っており、音楽科の授業にも意欲的に取り組んでいる。楽器に対する関心も高く、旋律楽器としてのリコーダーの練習にも良く取り組んでいるが、「いろいろな音の違いを感じ取ろう」の学習での教材「音のカーニバル」で打楽器や身近な物から出る音の組み合わせでの演奏を大変喜び、楽しんでいた。楽器の中でも太鼓を代表とする打楽器に興味関心が高まっている。

(2) 教材観

私たちの周りには、古くから人々が守り育ててきた我が国独自の色々な音楽があり、これらの音楽は、諸外国の音楽には見られない独特の味わいを持っている。コミュニケーションの手段が発達した現代においては、簡単に世界の国々の音楽を耳にすることができるようになったが、我が国に古くから受け継がれている民謡やお囃子に親しみながら、これらの音楽が持つ独特の味わいを感じ取りそのよさを味わうようにすることも大切である。そこでこの題材では、我が国独自の音楽のジャンルの中から、児童にとって身近な「郷土に伝わる音楽」に関心を持つことから学習を始めていく。教科書では全国各地に伝わる民謡やお囃子の一部が紹介されているがほんの一部で、日本の各地には非常に多くの民謡や地域のお囃子が残されている。民謡もお囃子も、多くは元々その土地の生活の中から生まれ、少しずつ形を変えながら定着して今に受け継がれている。お囃子で使われる楽器などが、太鼓を中心に地方により違うのもそのためである。そうした違いもそれぞれの郷土に根ざした独特のよさを伝えている。

(3) 指導観

児童は、運動会で第3学年では「花笠音頭」、第4学年では「キッズソーラン」を踊っている。「花笠音頭」「ソーラン節」には親しみを持っていると考えられるので、日本の音楽への足がかりとしたい。また、川越まつりを始め郷土のお囃子に直接、間接と多少の差はあれ触れたことがある児童がほとんどなので、楽器の音色やそれぞれの楽器が打つリズムのおもしろさなどに注目して聴くようにしたい。また「こきりこぶし」では、素朴な曲想を感じ取って歌ったり、打楽器を選んで音色を工夫しながら、歌と一緒に演奏して楽しむようにしたい。

3 研究主題との関わり

(1) 本題材における新学習指導要領のかかわり

各学年で取り上げる打楽器は、木琴、鉄琴、和楽器、諸外国に伝わる様々な楽器を含めて演奏の効果、学校や児童の実態を考慮して選択すること。

- ・川越まつりや各地区の盆踊りで伝えられてきたお囃子や民謡を取り上げ、日本の伝統的な音楽の旋律や響きの特徴を感じ取りながら、曲想を味わったり表情豊かな表現を工夫したりする活動を進めていく。

(2) 博物館資料の活用

①資料名（展示コーナー名）

- 「川越まつり」 (民 俗)
- 「面」 (民 俗)
- 「氷川神社本殿彫刻」 (民 俗)
- 「ふるさとのまつり」 (民 俗)

②活用の仕方

- ア お囃子への興味、関心を高めるため、川越まつりに関係する資料を見学し、郷土に残る伝統芸能としてのお囃子を意識できるようにする。
- イ 川越まつりのお囃子や、地域の年中行事で使われている音楽の音源をもとに、使われている楽器を考える。

4 教材の目標

- 旋律の特徴や響きの違いを感じ取りながら、日本の伝統音楽に親しもうとしている。

5 教材の評価規準

| 音楽への<br>関心・意欲・態度                   | 音楽的な<br>感受や表現の工夫                     | 表現の技能                                          | 鑑賞の能力                                    |
|------------------------------------|--------------------------------------|------------------------------------------------|------------------------------------------|
| 郷土の音楽に関心を持って、進んで聴いたり演奏したりしようとしている。 | 日本の音楽の特徴を感じ取って、歌い方や打楽器の演奏の仕方を工夫している。 | 旋律や響きの特徴を感じ取って、のびのびとした声で歌ったり打楽器を演奏したりすることができる。 | 人の声や楽器の音色など、郷土の音楽の特徴やよさを感じ取りながら聴くことができる。 |

6 学習指導計画(7時間扱い)

| ○小単元 ●目 標                                                | 学習内容・学習活動                                                                                                                               | 博物館資料の活用                                                                                                                                                                                        |
|----------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ○第一次(3時間)<br>●各地の郷土の音楽を聞き比べたり、それらについて調べたりして、日本の伝統音楽に親しむ。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・旋律の特徴や楽器の響きの違いを感じ取りながら各地の郷土の音楽を聴く。</li> <li>・博物館やインターネットなどで調べたり、郷土の音楽を聞き比べたりする。</li> </ul>      | <ul style="list-style-type: none"> <li>○川越まつり                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・面</li> <li>・山車の彫刻</li> </ul> </li> <li>○ふるさとのまつり</li> <li>○ビデオコーナー</li> </ul> |
| ○第二次(4時間)<br>●人の声や楽器の音色などの音楽の特徴をつかみ、それを生かして演奏する。         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽の特徴に気付きながら聴く。</li> <li>・伸び伸びとした歌声で歌う。</li> <li>・音色を選びながらリズム伴奏の組み合わせを考え、歌に合わせて演奏する。</li> </ul> |                                                                                                                                                                                                 |

## 7 本時の学習指導(3/7時)

### (1) 目標

○川越市内のお囃子を聴き、日本の伝統音楽に親しもうとする。

### (2) 展開

| 学習内容 ・ 学習活動                                                                                       | ○教師の働きかけ ☆評価 ◎博物館資料活用の視点                                                                                                                                                                                                                                                         |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>1 既習曲を歌い、学習の雰囲気をつくる。</p> <p>2 前時の学習を振り返る。</p> <p>3 本時の学習の流れを確認する。</p>                          | <p>○姿勢や口形に気をつけている児童、表情豊かに歌っている児童を称賛する。</p> <p>○相手のパートの声を聴きながら歌うことができるよう声かけをする。</p> <p>○前時まで聴き比べた曲（北海道：ソーラン節、沖縄：エイサー）や、調べた曲を想起させ、どんな特徴があったか確認する。</p> <p>○本時のめあてを確認する。</p>                                                                                                         |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">各地に伝わる音楽を聴き比べよう。</div> |                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| <p>4 川越市内のお囃子を聴き、使われている楽器など気がついたことを発表する。</p> <p>5 神田囃子を紹介する。</p> <p>6 本時のまとめをし、次時の予告を聞く。</p>      | <p>◎博物館資料（音源）を聴かせ特徴となる楽器について考えさせる。</p> <p>☆郷土の音楽を聴き、音楽の特徴を感じ取っている。（鑑賞中の様子の観察や鑑賞後の発表内容）</p> <p>◎川越まつりでのお囃子であることを確認する。</p> <p>◎面や、山車の彫刻の写真を見せ、関心を高める。</p> <p>☆郷土の音楽に関心を持って、進んで聴こうとしている。（鑑賞中の様子の観察や鑑賞後の発表内容）</p> <p>○川越のお囃子と似ている点、異なる点を探させる。</p> <p>○次時からは、「こきりこぶし」を学習することを伝える。</p> |

## 8 成果と課題

### (1) 成果

○博物館にある川越まつりの面などの写真や音源などの具体的な資料を使ったことで、郷土の祭りの音楽であるお囃子が児童にとってより身近なものとして捉えることができ興味関心が高まった。

○神田囃子という他のお囃子と比較したことは児童にとって新しい発見があると共に、地域の祭りに対して伝統や文化を改めて感じる事ができた。

### (2) 課題

○今回、第4学年の「日本の音楽に親しもう」の学習では、写真や音源を足がかりにして学習を進めたが、第5学年での郷土の音楽「お囃子づくり」に発展していく学習では、博物館の資料の紹介や活用方法のさらなる工夫の必要である。

# 博物館の活用と新学習指導要領との関連

中学校 音楽

| 新学習指導要領から                                                                                                                                                              | 活用できる博物館資料                                                          | 活用例                                                                                                                                                                                          |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>第3章 第1節 第1学年の目標と内容</p> <p>(2) B 鑑賞(1) - イ</p> <p>音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連づけて鑑賞すること。</p>                                                                           | <p>木遣り節と地形</p> <p>川越まつり囃子(スクリーン)</p> <p>水琴窟</p> <p>(解説員の方からのお話)</p> | <p>1年</p> <p>郷土の音楽</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小江戸川越音さがし</li> <li>・川越に伝わる音楽と背景</li> <li>・博物館の方にインタビュー</li> <li>・「小江戸川越音案内」のグループ発表</li> </ul>                                 |
| <p>第3章 第2節 第2学年及び第3学年の目標と内容</p> <p>(1) A 表現(1) - イ</p> <p>曲種に応じた発声や言葉の特性を理解して、それらを生かして歌うこと</p> <p>(2) B 鑑賞(1) - イ</p> <p>音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて理解して、鑑賞すること。</p> | <p>川越舟歌</p> <p>木遣り節と地形</p> <p>川越まつり囃子(スクリーン)</p> <p>水琴窟</p>         | <p>2年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まつり囃子講座</li> <li>・川越舟歌 歌講座<br/>AR演奏</li> <li>・通じゃんせ遊び歌講座</li> </ul> <p>3年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・川越観光サポート隊</li> </ul> |

# 第1学年 音楽科学習指導案（中）

## 1 単元名 「小江戸川越音案内」

### 2 単元について

#### (1) 生徒観

本校は、川越市の旧市街の中心地に位置している。生徒は普段から時の鐘の音や祭り囃子、氷川神社や蔵造りの町並みなどを日常的に目にしている。本学年は音楽好きな生徒が多く、家庭での習い事としてピアノ等に取り組んでいる生徒も多い。また、地域の囃子連に加入し、小さいころから祭り囃子に親しんでいる生徒もいる。

表現活動にも積極的で自分をのびのびと表現することができる。授業への集中度が高く、自分の意見をはっきりと述べることができたり、友人の発表等もしっかりと聞くことができる。

#### (2) 教材観

川越は、「小江戸」「城下町」という代名詞がふさわしい町並みや、歴史ある建造物、川越まつりなどの年中行事が今も残る町であるとともに、近年ではテレビドラマや旅番組のロケ地に用いられることもあり、休日はもとより平日にも日本各地や海外から多くの観光客が訪れる町でもある。本校では第3学年の総合的な学習の時間の学習として、「川越観光サポート隊」と称し、旧市街地で観光客と直に接し、観光の手伝いをしている。そこで本単元において、サウンドスケープ・郷土に伝わる音楽と社会背景について改めて学習し、お囃子講座や遊び歌等の体験を行うことにより、第3学年の学習につなげていく。

#### (3) 指導観

博物館には、自然から生まれる音を利用した水琴窟や、人びとのくらしの中から生まれ育まれてきた祭り・歌・踊り・時代背景を映し出すセットがある。さらに、それらをわかりやすく紹介できる解説員が常駐している。そこで、「水琴窟」や蔵造りの建物の基礎工事で息を合わせるために歌われた「木遣り節」、川越まつりの「祭り囃子」を教材として取り上げる。そして、体験や調査、解説員との関わりを通してわかったことを、自分の言葉に置き換え、人にわかりやすく説明する学習を展開していく。これにより、自分の町の伝統や文化を学び、実際に生かすことにより、自分たちの住む町に今まで以上に愛着と誇りを感じることをできる生徒を育てたい。

### 3 研究主題とのかかわり

#### (1) 本単元における新学習指導要領のかかわり

表現活動を通して、生徒が我が国や郷土の伝統音楽のよさを味わうことができるよう工夫すること

- ・水琴窟、木遣り節、川越まつりのお囃子等の資料を取り上げ、その特徴や背景となる文化歴史について調査する。
- ・地域に伝わる民謡・唱歌・祭り囃子などの郷土芸能の体験や実際の演奏を通して、郷土の伝統文化を更に知り、未来に向けて発信していこうとする態度を育てる。

(2) 博物館資料の活用

①資料名（展示コーナー名）

- 「水琴窟」 (博物館中庭)
- 「川越まつり」 (民俗)
- 「蔵造り（木遣り節）」 (民俗)

②活用の仕方

- ア 資料の音を直接聞き、体験する。
- イ 音が出る仕組みや、歌の意味・由来等について調べる。
- ウ 調査の過程で生じた疑問について、解説員を活用してさらに追究する。

4 単元の目標

- 地域の生活と深いかかわりを持つ郷土の音楽や川越独特の音に対して興味・関心を持つとする。
- 自分たちの言葉や音楽で川越を紹介することができる。

5 単元の評価規準

| 音楽への<br>関心・意欲・態度                                                                                                          | 音楽的な感受や表現<br>の工夫                                                                 | 表現の技能                                                                                                  | 鑑賞の能力                                                                                                                           |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○郷土の音楽、サウンドスケープに興味や関心を持つとする。</li> <li>○グループ発表で、一人ひとりが自分の役割を意欲的に果たそうとする。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○郷土の音楽、サウンドスケープの良さを感じ取ることができる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○アルトリコーダーや歌で「川越舟歌」の演奏ができる。</li> <li>○遊び歌を実演することができる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○郷土の民謡、サウンドスケープの良さを感じ取ることができる。</li> <li>○各グループごとに、作品や演奏の良かった点、改善点を指摘することができる。</li> </ul> |

6 学習指導計画（6時間扱い）

| 時                 | ○小单元名 ●目標                                                                                                                                 | 学習内容・学習活動                                                                                         | 博物館資料の活用                                                                                           |
|-------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1<br>・<br>2<br>時間 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○「小江戸川越音案内」</li> <li>●郷土川越の音楽やサウンドスケープに対して興味関心を持つ。</li> <li>●作品や発表の良さ、改善点などを指摘することができる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>1 身の回りにある「川越らしい音」を挙げる。</li> <li>・郷土に伝わる唱歌や民謡、祭り</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○3年間を通じた学習により、総合での「川越観光サポート隊」に結びついていることを明確にしておく。</li> </ul> |
| 2<br>・            | <ul style="list-style-type: none"> <li>○「郷土に伝わる音楽・芸能を学ぼう」</li> </ul>                                                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>1 音楽について調べ、川越らしい音と共にグループ発表</li> </ul>                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>○博物館の展示資料とインタビュー</li> </ul>                                 |

|                  |                                      |                                                            |                                                  |
|------------------|--------------------------------------|------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------|
| 2<br>時<br>間      | ●郷土に伝わる音楽の特徴を捉え、演奏をすることができます。        | 表する。<br>・遊び歌<br>・祭囃子（ミニ先生）<br>・川越舟歌（A R・歌）<br>・川越新小唄（歌と踊り） | ・水琴窟の音と背景<br>・木遣り節やささら獅子舞などの時代背景や暮らし<br>・川越まつり囃子 |
| 3<br>2<br>時<br>間 | ○「川越観光サポート隊」<br>・●本番に向けて簡潔に説明発表ができる。 | 1 市街地に出かけ観光客のサポートをする。<br>・博物館<br>・蔵造りの通り                   | ○水琴窟<br>○蔵造り（木遣り節）<br>○川越まつり（映像）                 |

## 7 本時の学習目標（2／6時）

### （1）目 標

- 郷土川越の音楽やサウンドスケープに興味・関心を持つようとしている。
- グループ内で協力して発表準備をすることができる。

### （2）展 開

| 学習内容・学習活動                                    | ○教師の働きかけ ☆評価 ◎博物館資料活用の視点                                                                                   |
|----------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 既習曲を歌う。<br>・和太鼓の地打ちと上打ちのリズムをボディパーカッションで打つ。 | ○姿勢や口形に気をつけて既習曲をのびのびと歌わせる。<br>☆正しいフォームで演奏しているか。<br>☆授業に対し前向きに取り組んでいるか。                                     |
| 2 本時の目標を確認する。                                |                                                                                                            |
| 自分たちの言葉や音楽で川越を紹介しよう                          |                                                                                                            |
| 3 グループ内で発表へ向けて最終チェックを行う。                     | ○事前に分担した役割に沿って準備を進め、予め設定されたたれた時間内で工夫された発表になるようお互いの確認をする。<br>☆協力して準備を進めているか。<br>◎博物館活用の発表物は、他のものと色分けして区別する。 |
| 4 グループで発表する。                                 | ○見る側、聴く側の立場に立っての発表を心がけるようにする。                                                                              |
| 5 本時のまとめと次時の予告                               | ○良かった点・改善すべき点などを指摘できるようにする。<br>☆他のグループの発表にしっかりと耳を傾けたか。<br>☆実演は魅力の感じるものであったか。                               |

## 8 成果と課題

### (1) 成果

- 生徒は小学校での生活科・総合学習等で川越について、すでに学んできている。しかし、視点を変えるだけで「今までとは違った川越の見方・感じ方」ができるようになった。
- 「人に伝える学び」は楽しく、3年生で行う実践に結びつけるために「川越らしい音探し」を自分達なりに工夫して発表することができた。

### (2) 課題

- 博物館は身近にあり、小学校での活用経験もあることから、本校の生徒にとって何度も訪れたことのある場所である。しかし、解説員との関わりから調査をする経験が少なく、積極的に活用できず、自分達が今までに持っている資料等で学習を進めてしまった。解説員との関わり方やその効果について事前に指導する必要がある。
- 時間的余裕がなく、十分な準備が整わないまま発表する形になってしまったため、魅力ある実演にまで結びつけることが難しかった。また、秋に合唱祭があるため、課題提示から発表までが間延びしてしまった。今後、実施の時期について再考する必要がある。

# 図画工作・美術科

「川越まつり・祭礼の面」や「木造阿弥陀如来坐像」「木造千手観音菩薩坐像」の活用

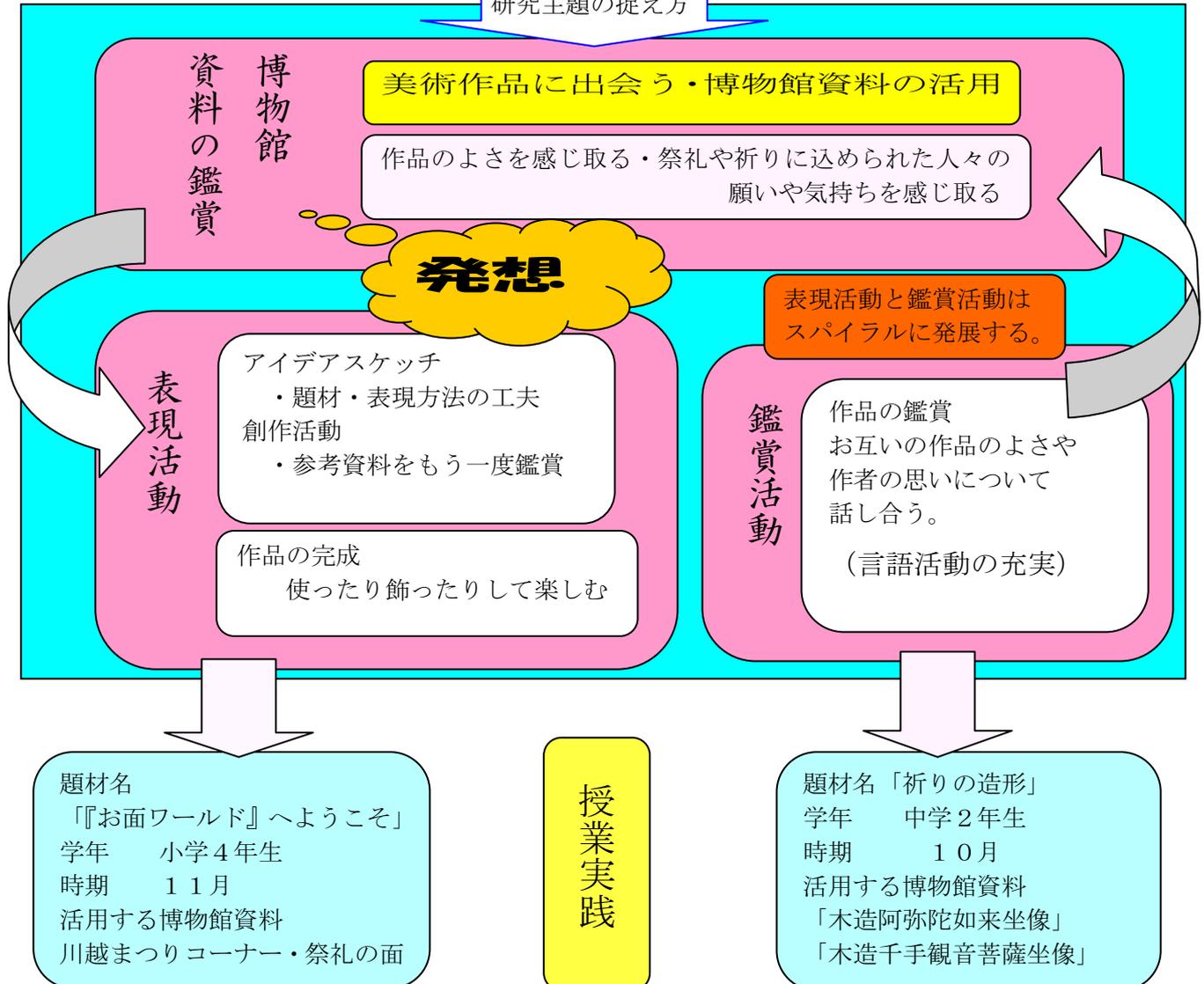
## 小学校図画工作科・中学校美術科学習指導要領改訂のポイント

### 改訂の趣旨

- 図画工作科では、表現や鑑賞の活動を通して、自らつくりだす喜びを味わうようにするとともに、感性や創造力、手や体全体の感覚などをはたらかせながら、造形的な創造活動の基礎的な能力を高め、生活や社会と主体的にかかわる態度を育て、豊かな情操を養うことを重視して改善を図った。
- 美術科では、表現や鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わわせ美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かに働かせて美術の基礎的な能力を伸ばし、生活の中の美術の働きや美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養うことを重視して改善を図った。

| 小学校 図画工作科                    | 共通                                                                                               | 中学校 美術科     |
|------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 材料や用具の取り扱いや鑑賞指導における美術館などとの連携 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・表現領域の改善</li> <li>・鑑賞領域の改善</li> <li>・[共通事項]の新設</li> </ul> | 表現形式などの取り扱い |

### 研究主題の捉え方



博物館の活用と新学習指導要領との関連

小学校 図画工作

| 新学習指導要領から                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 活用できる博物館資料                                                                                                                                     | 活用例                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>第3章第1節 第1学年及び第2学年の目標と内容<br/>A表現(2)<br/>感じたことや想像したことなどを絵や立体、工作に表す活動を通して、次の事項を指導する。</p> <p>第4章2内容の取扱いと指導上の配慮事項 2<br/>(2)各学年の「A表現」の(2)については、児童や学校の実態に応じて、児童が工夫して楽しめる程度の版に表す経験や焼成する経験ができるようにすること。</p> <p>(5)各学年の「B鑑賞」の指導に当たっては、児童や学校の実態に応じて、地域の美術館などを利用したり、連携を図ったりすること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「地域の美術館など」とは、美術館や博物館など、親しみのある美術作品や暮らしの中の作品などを展示している地域の施設や場所のことを示している。(中略)施設が提供する教材や教育プログラムを活用する、学芸員などの専門的な経験や知識を生かして授業をするなど、多様な取組が考えられる。</li> </ul> <p>第3章 各学年の目標及び内容<br/>B鑑賞<br/>〔第3学年及び第4学年〕(1)ア<br/>自分たちの作品や身近な美術作品や製作の過程などを鑑賞して、よさや面白さを感じ取ること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>表現に関連がある作品や日用品、伝統的な玩具、地域の美術館の作品、人が体全体でもものをつくっている姿。</li> </ul> <p>〔第5学年及び第6学年〕(1)ア<br/>自分たちの作品、我が国や諸外国の親しみのある美術作品、暮らしの中の作品などを鑑賞して、よさや美しさを感じ取ること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>美術作品、食器や家具、ポスターやネオンサイン、造園、建物、工芸品や衣服、様々な用具など、作りだされる過程や暮らしの中で見られる様々な美術の働きなど。</li> </ul> | <p>川越市立博物館編集・発行<br/>「諸願成就 だるまさん大集合」<br/>川越だるまの木型</p> <p>縄文式土器</p> <p>川越まつり・祭礼の面<br/>ふるさとのまつりコーナー</p> <p>博物館収蔵品<br/>・行灯 ・燭台 ・釣ランプ<br/>・提灯など</p> | <p>「ゆめの〇〇だるま」(2年)<br/>子どもの玩具として、また、所願成就の縁起物として、江戸時代から親しまれてきた、だるまさん。川越だるま、各地の変わりだるまを参考にして、自分の夢を形や色に取り入れたオリジナルだるまをつくる。</p> <p>「炎の芸術」(5.6年)<br/>大昔、人は焚き火のあとの土が固く変化していることを発見し、焼き物を知った。縄文式土器を鑑賞し、文様や加飾を参考にして焼き物をつくる。</p> <p>「お面ワールドへようこそ」(4年)<br/>川越まつりや世界各地のお面を鑑賞し、お面に託された願いを想像したり、形や模様のおもしろさを感じたりする。その後、自分の願いを託したお面を色や模様などを工夫しながらつくる。</p> <p>「あかりたちのゆめ」(4年)<br/>ランプの美しい明かりを見るという課題から想像を広げ、ペットボトルのような透明素材や油性マーカーなど光を透過する材料を組み合わせ、工夫してランプをつくる。</p> |

## 第4学年 図画工作科学習指導案（小）

### 1 題材名 「お面ワールド」へようこそ

### 2 題材について

#### (1) 児童観

本学級の児童は、図工が大変好きである。中でも工作の好きな児童が多い。第4学年になってからの題材「わたしは、絵の具のマジシャン」や「ランチをどうぞ」では、形や色を工夫しながら自分の思いを表現してきている。ほとんどの児童は、自分のつくりたいものを楽しく考えることができる。図工は自分の思いを自由に表現できることが、児童にとっては魅力的なようである。しかし、中には自分の表したいものがなかなか思いつかなかったり、うまく表現できずに悩んだりする児童も見受けられる。そこでできるだけ多くの児童が意欲的に取り組めるような、魅力的な導入、提案の仕方を工夫していきたいと考えている。

#### (2) 題材観

本題材は、面を鑑賞し、制作する活動の中で造形的なものの見方や考え方、造形感覚を養う活動である。面は、祭礼や神事、演劇など、いろいろな機会に使われ、長い歴史の中で現在に伝わってきた。また、超人間的な性質をもち、優しさや恐ろしさ、力強さなど様々な様相をかもし出している物である。そのような面を鑑賞する活動は、造形が暮らしを豊かにするためにいろいろな場面で生かされていることに気づき、見方を広げるきっかけになると考えられる。鑑賞後は面のもつ特徴を生かし、「もっとサッカーが上手になりますように」「元気に毎日がなげられますように」など、面に願いをかけ、自分を守ってくれる張り子の面をつくる活動へと発展させていく。自分の思いを色や模様、形で表現する活動である。

張り子は粘土や木でできた型に紙を何重にも貼り重ね、乾かして色を付ける面作りの技法である。ここでは新聞紙を利用するが、児童は、身近な新聞紙が、糊をつけて乾かすことで、丈夫な固いものに変化することに驚くであろう。新聞という身近な材料の新たな表現の可能性に気付くことができる。

#### (3) 指導観

面には不思議な力がある。面をつくったりかぶったりする魅力は、変身願望を満たしてくれることである。たった1枚の紙でも素顔を隠すことで異次元の世界にワープできるのである。本題材では発想を広げながらつくと同時に、不思議な心理体験も楽しませたい。

また、始めにいろいろな面を見て、触って、かぶるといような面を体感する鑑賞活動を十分に行いたい。そしてその活動の中から造形的なおもしろさや文化的意味にも触れさせ、興味を持たせ、自分の願いを託す面をつくる表現活動へと発展させていきたい。

### 3 研究主題とのかかわり

#### (1) 本単元における新学習指導要領のかかわり

- 身近にある作品などから、よさや面白さを感じ取るようにする。
- 自分たちの作品や身近な美術作品や製作の過程などを鑑賞して、よさや面白さを感じ取れるようにすること。

- ・博物館に展示してある「祭礼の面」や、世界の面を鑑賞することにより、その造形的な面白さや特徴に気づくようにし、造形活動に活かしていく。

(2) 博物館資料の活用

①資料名（展示コーナー名）

「祭礼の面」（民俗）

②活用の仕方

- ア 導入時の日本や世界にある様々な面を鑑賞する際に、川越まつりの「祭礼の面」を取り上げ、表情や形のおもしろさ味わう。

4 題材の目標

- 世界の面の造形的な面白さを感じ取り、自分でつくった面をかぶり変身することを楽しむ。
- 自分の願いを表す面を発想し、新しい考えを付け加えながらつくる。
- 面の色や形、模様などを工夫しながらつくる。
- いろいろな国の面の造形的な面白さに気付いたり、面をかぶってその様子を楽しんだり、いろいろな工夫に気付いたりする。

5 題材の評価規準

| 美術への<br>関心・意欲・態度                                            | 発想や構想の能力                         | 創造的な技能                          | 鑑賞の能力                                     |
|-------------------------------------------------------------|----------------------------------|---------------------------------|-------------------------------------------|
| ○いろいろな面に関心を持ち、楽しく見ようとする。<br>○面をつくったり、かぶって変身したりすることを楽しもうとする。 | ○世界の面を鑑賞する活動を基に、自分の願いを叶える面を思いつく。 | ○自分の願いを表現するために、面の色や模様、形などを工夫する。 | ○鑑賞作品や自他の作品を見ながら、表現の意図や特徴をとらえ、見方や感じ方を深める。 |

6 学習指導計画（7時間扱い）

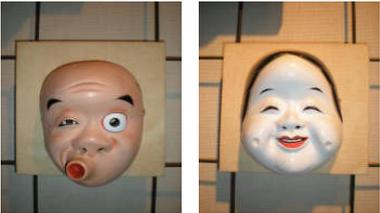
- (1) いろいろな国の面を見たり、触ったり、かぶったりして鑑賞する。 <45分>
- (2) 面に託す願いを考え、面のアイデアスケッチをする。 <45分>
- (3) 油粘土で張り子の型をつくる。 <45分>
- (4) 新聞紙と和紙を貼り重ねる。 <90分>
- (5) 色を付けたり模様を描いたりする <45分>
- (6) 面をかぶって遊んだり、作品を発表したりして、互いのよさを感じ取る。 <45分>

7 本時の学習指導（1／7時）

(1) 目標

- 面の模様や形のおもしろさを感じたり、面にこめられた思いや願いを想像したりする。

(2) 展 開

| 過程                                                                                                                                      | 学習活動                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | ○教師の働きかけ ☆評価（評価方法）<br>◎博物館資料活用の視点                                                                                                                                                                                                           | 資料準備                           |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------|
| 導入・10分                                                                                                                                  | 1 見たり、つけたりしたことのある面を想起する。<br>2 面を提示する。                                                                                                                                                                                                                                                                     | ○ヒーローの面や豆まきの鬼の面など今までの経験の中で触れてきた面を思い出させ、思いをふくらませられるようにする<br>○事前に子どもにも呼びかけ、面や写真などを集めておき、いろいろな面に出会えるようにする。                                                                                                                                     | ヒーローの面                         |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">             &lt;提案&gt; いろいろな面のおもしろさを発見しよう。           </div> |                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                             |                                |
| 展開・30分                                                                                                                                  | 3 面を見たり、触れたり、かぶったりする。<br>○川越まつり祭礼の面4種類<br>(火男) (岡目)<br><br>(狐) (猿)<br><br>○世界各国の面<br>ネパール・アフリカ<br>タイ・インドネシア<br>○能面<br>4 鑑賞カードに記入をする。 | ○面への積極的な関わりができるように、できるだけ実物を準備する。<br>◎川越の職人とまつり展示室「祭礼の面」どんな思いがこめられているのか想像し形や表情のおもしろさを感じ取らせる。<br>○鏡を用意し、面をつけた姿を自ら見て楽しむようにする。<br>☆資料などに関心を持って見たり触れたりしている。(関・意・態：行動観察)<br>○気に入った面のおもしろさに気づいたり思いを感じたりできるようにする。<br>○色や形、発想のおもしろさなど造形的な気づきを特に評価する。 | 面の写真<br>面の実物<br>姿見(鏡)<br>鑑賞カード |
| まとめ・5分                                                                                                                                  | 5 感じたことや思ったことを発表しあう。<br>○グループで<br>○全体で<br>6 本時を振り返り、感想を発表する。                                                                                                                                                                                                                                              | ☆いろいろな国の面の特徴に気づき、色や形などの造形的な工夫を見つけている。<br>○この学習で感じたことカードに書かせ、次時の表現活動につなげる。                                                                                                                                                                   | 振り返りカード                        |

## 8 成果と課題

### (1) 成果

- 面の鑑賞時間を1時間設定し、見たり、触れたり、かぶったりしたことにより、その後の面づくりの意欲が高まった。児童も面をかぶり変身した姿を鏡に映して十分に楽しんでいた。
- 川越まつりに関する面を見たことのある児童は多いが、知識のある児童は少なかった。祭りに詳しい教頭から面に込められた意味や願いを聞くことにより、面に対する思いが深まり、その表情を良く見ていた。
- 児童は、総合的な学習の時間「好きです ふるさと川越」の学習で、観光施設「川越まつり会館」を見学した直後であり、祭りに対する関心の高い時期であった。まつり会館に無い狐や猿の面を間近で見て、狐の鋭い目の表情や猿の縞模様は驚きと感動を与えていた。
- グループで感想を述べ合い、その後学級全体で発表するという学習過程は、新教育課程の言語能力を重視する点で今後も取り入れていきたい。



### (2) 課題

- 博物館展示資料の面は写真であったため、色や模様には驚いていたが、奥行きや質感を捉えることが難しかった。小学校段階の鑑賞では、実物を見たり、触れる体験もさせたい。
- 限られた授業時数の中で、張り子の作業は時間がかかるので紙粘土で面づくりをしても良いだろう。

願いをこめて



空を飛んでみたい



器用な人になれますように



人を楽しませるお笑い芸人になりたい



めざすはサッカー選手



バレーボールの試合で勝てるように



みんなが笑顔になれますように

博物館の祭礼の面の鑑賞から始まり、  
思い思いの願いを込めた面づくりをし、  
自他の作品を鑑賞して終わった。



## 博物館の活用と新学習指導要領との関連

中学校 美術

| 新学習指導要領から                                                                                                                                       | 活用できる博物館資料                                                                                                                                         | 活用例                                                                                                                                                                                                                     |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p><b>第2章 第1節 美術科の目標</b></p> <p>表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、…美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。</p>                                                                  |                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                         |
| <p><b>第4章 2 内容の取り扱いと指導上の配慮事項 2 (1) エ</b></p> <p>表現の材料や題材などについては、地域の身近なものや伝統的なものも取り上げるようにすること。</p>                                               | <p>近・現代展示室<br/>消防組織の纏と印半纏</p> <p>民俗展示室<br/>川越まつり・祭礼の面</p>                                                                                          | <p>「マークのデザイン」(1年)<br/>纏のデザインや印半纏に見る屋号のデザインを鑑賞して、自分たちが所属する組織(クラスや部活)のマークをデザインする。</p> <p>「お面は語る」(1年)<br/>昔から、仮面をつけて演じたり踊ったりすることで、豊かな実りや、商売繁盛、悪霊退散などの特別な力を備えた存在に変身できると信じられてきました。仮面にまつわる文化や仮面そのものを学習し、現代の祭にかなった仮面を制作する。</p> |
| <p><b>第4章 2 内容の取り扱いと指導上の配慮事項 2 (2)</b></p> <p>各学年の「B 鑑賞」の題材については、日本および諸外国の児童生徒の作品、アジアの文化遺産についても取り上げるとともに、美術館・博物館等の施設や文化財などを積極的に活用するようにすること。</p> | <p>中世展示室<br/>(木造薬師如来坐像)<br/>(木造千手観音菩薩坐像)<br/>鎌倉時代・古谷本郷灌頂院<br/>銅造阿弥陀三尊懸仏<br/>鎌倉時代・古尾谷八幡神社<br/>懸仏<br/>室町時代 上戸日枝神社<br/>懸仏<br/>天文20(1551)<br/>尾崎神社</p> | <p>「願いや祈りの造形」(2・3年)<br/>中世の人々が祈りの対象とした仏像や神像などの造形を鑑賞し、どんな願いをどんな形に表現していたのかを知る。</p> <p>現代の私たちが、「願いや祈り」を込めるにはどんな造形がふさわしいだろうか。積極的に鑑賞しようとする気持ちを高めるために、現代の「祈りの造形」を創造する。</p>                                                    |

## 第2学年 美術科学習指導案（中）

1 題材名 「祈りの造形」－仏像物語・願いや祈りの造形－

2 題材について

(1) 生徒観

本校は川越市の中心部に位置し、鉄道の駅からも近い立地に位置する。川越の文化・伝統を守り続ける古くからの地域である。一方、マンション住まいの家庭、転入生徒も多い。情報化社会の影響を受け、ゲームの世界や漫画・アニメ・イラスト・絵本の挿絵など知的経験から学んだ風景になじんでいる生徒が多い。歴史や文化の残る川越の中心部に住んでいても、アジア、日本の伝統・文化を学ぶ機会は少ない。

(2) 題材観

仏像は飛鳥時代に、仏教の教えとともに日本に伝来し現在に至るまで、それぞれの時代の願いや思いを受けとめ、作られ続けてきた。川越では寺院や博物館に残る中世に作られた仏像の実物を間近に鑑賞することができる。中世の人々が祈りの対象とした仏像や神像などの造形を鑑賞し、どんな形に表現していたかを学習し、そこから学んだことを踏まえて、現代の私たちが「願いや祈り」を込めるにはどんな造形がふさわしいかを創造する活動を通して、積極的に鑑賞しようとする気持ちを高める。

(3) 指導観

中学2年生時には、鎌倉への校外学習と京都・奈良への修学旅行を経験することができる。わが国の文化に触れ、興味・関心を持って学習する好機である。また、生徒の内面的な成長の過渡期でもある。心と身体の成長のズレから来る悩みや自身の急激な成長に対する不安とあせり、そして積み上げてきた努力からくる自信と…その全てを混沌と抱え込んでいる。そして、ようやく静かに物事を見つめようとする客観性も育って来る頃である。だからこそ、古の人々が仏像に込めた願いや祈りの造形について共感できるようになってくる。また、そのように育てたい。そして、現代の私たちが抱える悩みとこれからの未来への展望を願い・祈る、その形を創造させたい。

3 研究主題との関わり

(1) 本題材における新学習指導要領のかかわり

- 表現の材料や題材などについては、地域の身近なものや伝統的なものも取り上げるようにすること。
- 各学年の「B鑑賞」の題材については、日本および諸外国の児童生徒の作品、アジアの文化遺産についても取り上げるとともに、美術館・博物館等の施設や文化財などを積極的に活用するようにすること。

- ・題材として地域に残る文化財であり、博物館に展示されている中世の仏像を取り上げる。
- ・鑑賞教材として地域の文化財を取り上げることにより、自国の文化についての理解を深め誇りを持ち、よりよい価値や美しさに気づく機会にする。

(2) 博物館資料の活用

①資料名（展示コーナー名）

「木造薬師如来座像」「木造千手観音坐像」（中世）

②活用の仕方

- ア 夏休み前の授業で仏像についての基礎知識を学ぶ。
- イ 夏休みの宿題で博物館を訪れ、展示されている仏像を鑑賞する。
  - (ア) 仏像の姿をそのままスケッチする。
  - (イ) 「顔の表情」「手のしぐさ」「光背・持物・飾り」などについて考察する。
  - (ウ) 当時の人々が込めた願いや祈りを想像して文章記述する。
- ウ 夏休み後の授業で、次の点を振り返る。
  - (ア) ワークシートのふりかえりをする。
  - (イ) 仏像の図版を観て「名前」「姿」「形」の意味を学びとる。
  - (ウ) 仏像から学んだ意味を活かして「現代の祈りの造形」をデザインする。
- エ 第2学年では、春の校外学習で「鎌倉」を訪ね、2月の修学旅行で「京都・奈良」を訪れる。日本の伝統・文化に触れることができるこの機会に、川越に残る中世の仏像についても学習を深める。

4 題材の目標

- 仏像の造形に関心をもつ。
- 現代の願いや祈りに則した仏像をデザインする。
- 名前や姿・形の意味を考え、仏像のデザインを完成させる。
- 中世の人々の願いや思いを考えて、どうやって仏像の名前や姿・形に造形表現してきたのか読みとる。

5 題材の評価規準

| 美術への<br>関心・意欲・態度                          | 発想や構想の能力                                   | 創造的な技能                                              | 鑑賞の能力                                                       |
|-------------------------------------------|--------------------------------------------|-----------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------|
| ワークシートに意欲を持って取り組み仏像の名前や姿・形の意味を学びとろうとしている。 | アイデアスケッチで現代の願いや祈りに則して色や形の工夫をして仏像をデザインしている。 | 作品制作にあたり、配色の工夫・色の効果を考え、名前や姿・形の意味を考え、仏像のデザインを完成している。 | 中世の人々の願いや思いを考えて、どうやって仏像の名前や姿・形に造形表現してきたのか読み取り、自分の作品制作につなげる。 |

6 題材の学習指導計画（9時間扱い）

| 時間   | 1                              | 2     | 3                            | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9      |
|------|--------------------------------|-------|------------------------------|---|---|---|---|---|--------|
| 過程   | 知的学習                           | 発想・構想 | 制作                           |   |   |   |   |   | 鑑賞・まとめ |
| 学習活動 | 仏像に学ぶ、阿修羅デザイン、技法を学ぶ、重色、グラデーション |       | アイデアスケッチをする 立体感、質感、量感、光の表現など |   |   |   |   |   | 鑑賞会    |

7 本時の指導（3／9時）

(1) 目標

- 仏像の作品を観て「名前」「姿」「形」の意味を学びとる。
- 仏像から学んだ意味を活かして「現代の祈りの造形」をデザインする。

(2) 展開

| 難                                                                                                                                                                                                                      | 学習内容                    | 学習活動                                                                                      | ○教師の働きかけ ☆評価 ◎博物館資料活用の視点                                                                                                                                |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入<br>・<br>5分                                                                                                                                                                                                          | 目標の理解                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・話を聞き、本時の学習を理解し興味を持つ。</li> <li>・目標を立てる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○目標をわかりやすく提示して、意欲を喚起する。</li> <li>☆話を聞き、制作カードに目標を立てている。</li> </ul>                                                |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仏像の作品を観て「名前」「姿」「形」の意味を学びとろう！</li> <li>・仏像から学んだ意味を活かして「現代の祈りの造形」をデザインしよう。</li> </ul> </div> |                         |                                                                                           |                                                                                                                                                         |
| 展開<br>①<br>・<br>5分                                                                                                                                                                                                     | 鑑賞<br>・気づき              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・如来、菩薩の「名前」「姿」「形」から意味を学び取る。</li> </ul>             | <ul style="list-style-type: none"> <li>○如来・菩薩に込められた祈りと「姿」「形」に表れた特徴を振り返る。</li> <li>○全員に考える時間を取り、発言者の発表内容を共有する。</li> <li>◎「木造薬師如来座像」「木造千手観音坐像」</li> </ul> |
| 展開<br>②<br>・<br>35分                                                                                                                                                                                                    | 制作<br><br>・アイデア<br>スケッチ | <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代の祈りを表現するための「名前」「姿」「形」をデザインを考え、表現する。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○机間巡視・個別指導で</li> <li>☆ワークシートの取り組み</li> </ul>                                                                     |
| 整理<br>・<br>5分                                                                                                                                                                                                          | まとめ                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の活動を振り返り、自分の学習状況を制作カードにまとめる。</li> </ul>         | <ul style="list-style-type: none"> <li>○一人ひとりが学習状況を確認できるように、活動を振り返る視点を示す。</li> <li>☆制作カードに振り返りをまとめている。</li> </ul>                                       |

## 8 成果と課題

### (1) 成果

- 夏休みの宿題に設定した課題「仏像と出会う」を実施したことにより、川越市立博物館を積極的に活用し、その後の学習への興味・関心を持たせることができた。また、博物館のキャプションを見て、新しい知識を得た生徒や、資料室まで足を運んで調べ学習をしてきた生徒もあった。さらに、市内の寺院や上野の国立博物館、京都の寺社にまで足を運んで学習する生徒もあった。指定された仏像以外にも興味の幅を広げて学習した生徒の発表が他の生徒への刺激にもなった。
- 部活動での悩みや努力、希望を「祈りの造形」に込めてデザインする生徒が多かった。学習活動を通して、生徒の心の成長を見ることができた。
- 地球温暖化など環境問題や社会問題などへ目を向け、「全体の幸福を祈る造形」をデザインしようとする生徒もみられた。表現と鑑賞のフィードバックが他者とのつながり（コミュニケーション）へと発展する作用になっていた。

### (2) 課題

- 仏像は本来、寺院など安置されるべき場所での「祈り」の対象である。博物館の明るい光の中ではその造形的な価値をよく鑑賞することができるが、当時の人々が込めた願いや思いを知るにはむしろ難しい面もある。
- 博物館の展示物の中には、実物と複製品がある。「実物を見たかった」「レプリカなので光背がなかった」といった生徒の声も聞かれたので、実物の所在地や見学の可否などの情報を紹介していく必要がある。
- 夏休みの課題プリントの生徒のスケッチを見ると、仏像と同じ目の高さで描いたものが多かった。中には視点を変えて下から見上げるようにスケッチをしてきた生徒もいたが、本来の仏像の安置状態では見上げることになるだろう。博物館での展示方法に工夫を期待したい。
- 常設展示室の展示替えがあり、宿題の対象にした展示作品が減っていた。事前に博物館の状況を確認しておく必要がある。

# 総合的な学習の時間

「川越まつり」「蔵造り」の常設展示や解説員などの人材活用

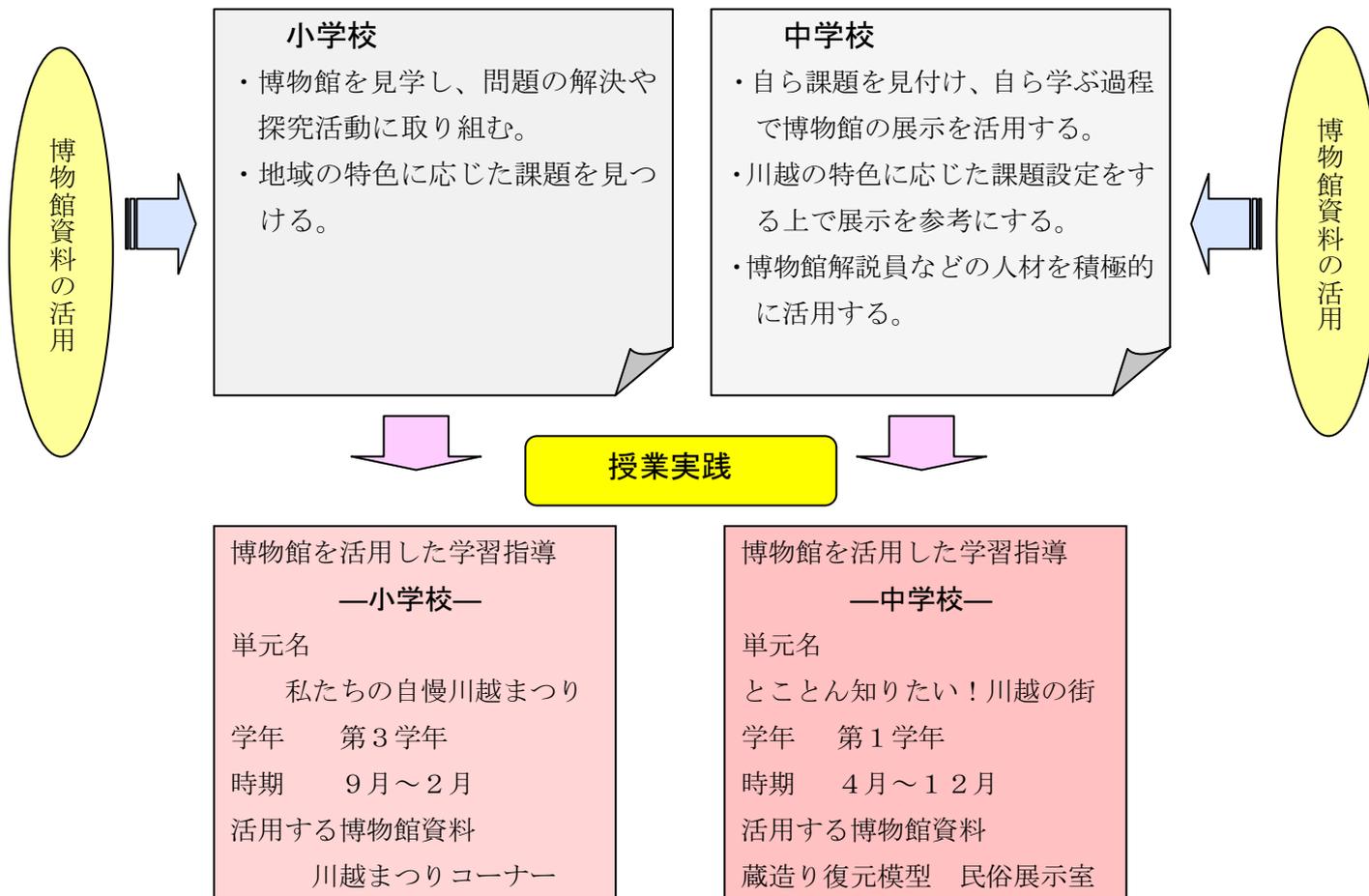
## 小中学校総合的な学習の時間学習指導要領改訂のポイント

改訂の趣旨：①目標に、探究的な学習を明示。②各学校には社会や日常生活とのかかわりを重視して目標及び内容を設定。③育てようとする資質や能力及び態度についての視点を例示。

| 小学校                         | 共 通                                                                                                                       | 中学校                                                                                      |
|-----------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|
| 地域の人々の暮らし、伝統と文化についての学習活動の充実 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・探究的な学習</li> <li>・社会や日常生活とのかかわりの重視</li> <li>・育てようとする資質や能力及び態度についての視点を例示</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・協同的な取り組み</li> <li>職業や自己の将来に関する学習活動の充実</li> </ul> |

「川越まつり」「蔵造り」は地域理解を深めるための適材である。小学校では常設展示でその伝統や文化について学び、中学校ではさらに一人一人の興味にしたがって探究的な学習につながるように解説員などから話を聞く機会を設け、資料を活用していく。

## 《博物館の活用と新学習指導要領との関連のポイント》



第1 目標

横断的・総合的な学習や探求的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探求活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。

第2 指導計画の作成と内容の取り扱い

- (2) 地域や学校、児童の実態等に応じて、教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習、探求的な学習、児童の興味・関心等に基づく学習など創意工夫を生かした教育活動を行うこと。
- (4) 育てようとする資質や能力及び態度については、例えば、学習方法に関すること、自分自身に関すること、他者や社会とのかかわりに関することなどの視点を踏まえること。
- (5) 学習活動については、学校の実態に応じて、例えば国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題についての学習活動、児童の興味・関心に基づく課題についての学習活動、地域の人々の暮らし、伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題についての学習活動などを行うこと。

第3 内容の取扱いについての配慮事項

- (3) 自然体験やボランティア活動などの社会体験、ものづくり、生産活動などの体験活動、観察・実験、見学や調査、発表や討論などの学習活動を積極的に取り入れること。
- (6) 学校図書館の活用、他の学校との連携、公民館、図書館、博物館等の社会教育施設や社会教育関係団体等の各種団体との連携、地域の教材や学習環境の積極的な活用などの工夫を行うこと。

| 活動内容     | 関連する資料                                                          |
|----------|-----------------------------------------------------------------|
| ○建物      | ・民俗展示室 蔵造りコーナー<br>・蔵造りの町並み復元模型                                  |
| ○歴史      | ・城下町模型<br>・川越版日本外史<br>・木造太田道灌像<br>・江戸図屏風<br>・体験→縄文土器作り 拓本 火おこし  |
| ○祭り      | ・川越まつりコーナー(川越まつり・ふるさとのまつり)<br>・川越まつりで使用するお面<br>・川越氷川神社本殿に見られる彫刻 |
| ○特産物     | ・職人の技(さつまいも)コーナー                                                |
| ○生活(衣食住) | ・川越唐棧<br>・高林式茶葉粗揉機<br>・川越織物市場復元模型<br>・体験→洗濯板 火熨斗 石臼 昔遊び         |
| ○自然      | ・新河岸川復元模型                                                       |

## 第3学年 総合的な学習の時間学習指導案（小）

### 1 単元名 「私たちの自慢 川越まつり」

#### 2 単元について

##### (1) 児童観

児童は、これまでに生活科の学習『町探検』を通して、学校の周りの様子やそこで働く人々 公共施設などに関心をもつようになってきた。また、1学期には、学区を探検し、歴史のある お店について調べたり、今まで気づかなかったことを発見したりして、改めて川越のよさや伝 統に気づくことができた。そこで、2学期は川越の伝統を伝えるもの「川越まつり」を調べる ことでより郷土への愛着が深まっていくと考える。

##### (2) 教材観

児童の楽しみの1つが川越まつりである。学区内で行われることもあり、自身がお囃子を演 奏したり、家族で山車を引いたり生まれた頃から身近な存在である。家族から祭りのことを 聞いたり、地域の方からお囃子を教わったりと、身近な人とのふれあいを通して地域のよさに 気づくこともできる。

##### (3) 指導観

「川越まつりは楽しい」という思いだけでなく、たくさんの人が楽しみにしている理由は何 なのか、自慢できるような所はどんなことなのかと祭りについて考えるきっかけを作り、地域 の良さに気づくようにしたい。

また、お囃子を体験し、祭りを支えている地域の人とのかかわりから、祭りについて新しい 発見をしたり、祭りには歴史や由来、意味があること、その祭りを大切に、受け継いでいる 人々の努力があること、たくさん地域の人の協力で祭りが成り立ち、地域の人々が心待ち にしていることなども発見してほしい。そして、これからも祭りに進んで参加し、祭りを受け 継いでいこうとする思いをもてるようにしたい。

#### 3 研究主題とのかかわり

##### (1) 本単元における新学習指導要領のかかわり

地域の人々の暮らし、伝統と文化など地域や学校の特色に応じた 課題についての学習活 動を行うこと。

- ・川越まつりの様子や歴史、由来などについて調査する。
- ・祭りを支えてきた人々の思いや願いにふれ、地域に生きる自分との関わりを考える。

##### (2) 博物館資料の活用

###### ①資料名（展示コーナー名）

- |                    |         |
|--------------------|---------|
| 「川越まつり」            | （民俗）    |
| 「氷川神社本殿彫物模型」       | （民俗）    |
| 「山王御祭禮練込図」「氷川祭礼絵巻」 | （特別収蔵庫） |

###### ②活用の仕方

- ア 映像資料や氷川神社関係の資料から、川越まつりや山車に関する歴史や様子、受け継 いできた人々の思いなどについて調べ、考える。
- イ 解説員との質疑応答を通して、展示資料の理解を深める。

#### 4 単元の目標

- お囃子の体験や川越まつりなどから、祭りに対する人々の思いや願いにふれ、川越まつりに関心を持ち、郷土川越を愛する心情を深める。

#### 5 単元の評価規準

| 学習方法に関すること                                                                                                                               | 自分自身に関すること                                                                                          | 他者や社会とのかかわりに関すること                                                                                                                                   |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○見たり、体験したりして、自分の課題を見つけ、祭りの様子や人々の思いを調べることができる。</li> <li>○調べたことを工夫してまとめたり、発表したりすることができる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○祭りに関わる人々の思いや願いにふれ、自分の生活を見直したり、これからの生活に生かそうとしている。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○お囃子体験やインタビューなど人とかかわりから、新たにわかったことや次の課題を見つけることができる。</li> <li>○学習したことから地域のよさにふれ、地域のよさについて考えることができる。</li> </ul> |

#### 6 学習指導計画（38時間扱い）

| ●小単元名 ○目 標                                                                                                            | 学習内容・学習活動                                                                                                                                                                         | 博物館資料の活用                                                          |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>●祭りを体験しよう（13時間）</li> <li>○見学したことや体験したことを記録し、課題を持つことができる。</li> </ul>            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・祭りについて知っていることを発表し合う。</li> <li>・祭り会館へ行き見学をする。</li> <li>・山車の組み立てを見学する。</li> <li>・お囃子や踊りの体験をする。</li> <li>・自分の課題を決定する。</li> </ul>             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・博物館見学「まつりコーナー」</li> </ul> |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>●祭りを調べよう（14時間）</li> <li>○必要な情報を選択したり、調べたことを発表したりすることができる。</li> </ul>           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の計画を立てる。</li> <li>・課題別に情報を収集する。</li> <li>・お囃子の練習をする。</li> <li>・博物館へ行き、情報を収集する。</li> <li>・地域の方にインタビューをしたり、祭り会館へ行ったりグループで活動する。</li> </ul> |                                                                   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>●祭りのよさを伝えよう（11時間）</li> <li>○調べたことに対し、自分の考えや意見をもち、まとめたり伝えたりすることができる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報を整理する。</li> <li>・情報を交換する。</li> <li>・課題にあったまとめをする。</li> <li>・発表会をひらく。</li> <li>・お世話になった方に手紙を書く。</li> </ul>                               |                                                                   |

## 7 本時の学習指導（15／38時）

### （1）目標

- 課題を解決するために、祭りについて知りたいことをインタビューしたり、情報を集めたりする。

### （2）展開

| 学習内容・学習活動             | ○教師の働きかけ ☆評価 ◎博物館資料活用の視点                                                                                                                |
|-----------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 博物館「まつりコーナー」を見学する。  | ○祭りのビデオを視聴し、分からないことや聞きたいことをメモするように助言する。<br>☆ビデオや展示物を見て、必要な情報をメモしている（行動観察）<br>◎ビデオ視聴から、祭りの歴史や人々の思いなどについて関心をもたせる。                         |
| 2 解説員さんに質問する。         | ○事前に質問を考えさせ、歴史・山車・お囃子・踊り人など情報をわかりやすく整理できるようにする。<br>☆知りたいことを質問している。（行動観察）<br>◎歴史など子供たちには、難しい言葉が沢山あるので説明をしてもらったり、関係のある展示資料を紹介してもらおうようにする。 |
| 3 図書閲覧室やビデオルームの見学をする。 | ○様々な資料から、必要な情報を集められるようにグループごとに見学をさせる。<br>◎川越まつり以外の祭りや行事などにも目を向けさせそれぞれのよさや受け継がれている理由なども考えさせる手立てにする。                                      |
| 4 見学のまとめをする。          | ○それぞれのグループで得た情報を交換したり、分からないことをもう一度解説員に質問したりする時間をとる。                                                                                     |

## 8 成果と課題

### （1）成果

- 児童だけで調べることには、限界があり、分からないことなど解説員の方に説明していただいたことが効果的だった。
- 祭りの映像や歴史が分かる絵巻などから詳しく調べることができた。

### （2）課題

- より効果的な活動になるよう、事前の打ち合わせや児童への指導などを丁寧に行っていききたい。

## 第1 目標

横断的・総合的な学習や探求的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考えを身に付け、問題の解決や探求活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。

## 第2 指導計画の作成と内容の取り扱い

- (2) 地域や学校、生徒の実態等に応じて、教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習、探求的な学習、生徒の興味・関心等に基づく学習など創意工夫を生かした教育活動を行うこと。
- (4) 育てようとする資質や能力及び態度については、例えば、学習方法に関すること、自分自身に関すること、他者や社会とのかかわりに関することなどの視点を踏まえること。
- (5) 学習活動については、学校の実態に応じて、例えば国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題についての学習活動、生徒の興味・関心に基づく課題についての学習活動、地域や学校の特色に応じた課題についての学習活動、職業や自己の将来に関する学習活動などを行うこと。

## 第3 内容の取扱いについての配慮事項

- (3) 自然体験や職場体験活動、ボランティア活動などの社会体験、ものづくり、生産活動などの体験活動、観察・実験、見学や調査、発表や討論などの学習活動を積極的に取り入れること。
- (6) 学校図書館の活用、他の学校との連携、公民館、図書館、博物館等の社会教育施設や社会教育関係団体等の各種団体との連携、地域の教材や学習環境の積極的な活用などの工夫を行うこと。

| 活動内容（研究テーマ例） | 関連する資料                                                           |
|--------------|------------------------------------------------------------------|
| ○蔵造りの町並み     | ・民俗展示室 蔵造りコーナー                                                   |
| ○蔵造りの構造について  | ・蔵造りの町並み復元模型                                                     |
| ○小江戸の町づくり    | ・川越町勉強商家案内寿語録（明治三十四年）                                            |
| ○川越の伝統と歴史    | ・城下町模型<br>・川越版日本外史<br>・木造太田道灌像<br>・江戸図屏風<br>・川越市制祝賀会実況絵葉書（大正十一年） |
| ○川越まつり       | ・川越まつりコーナー（川越まつり・ふるさとのまつり）                                       |
| ○川越の伝統芸能     | ・川越まつりで使用するお面<br>・川越氷川神社本殿に見られる彫刻                                |
| ○川越のいも菓子     | ・職人の技（さつまいも）コーナー                                                 |
| ○さつまいも料理について |                                                                  |
| ○生活（衣食住）     | ・川越唐棧<br>・高林式茶葉粗揉機<br>・川越織物市場復元模型<br>・体験→洗濯板 火熨斗 石臼 昔遊び          |
| ○自然          | ・新河岸川復元模型                                                        |

# 第1学年 総合的な学習の時間学習指導案（中）

1 単元名 「とことん知りたい！ 川越の街」

2 単元について

(1) 生徒観

生徒たちは、自分が暮らす街川越に対して愛着と誇りをもっている。特に「蔵造り」や「川越まつり」については高い関心をもっている。しかし、実際にそれらについての知識は決して多くはない。小学生の時に郷土川越について学習しているものの、忘れてしまっていたり、その時疑問に思ったことを解決しないまま中学生になっている生徒もいる。今、生徒たちが「知りたい」と感じている事柄を探究するためには、博物館を活用することが大きな手がかりになると考える。

(2) 教材観

本単元では、生徒自ら博物館へ足を運ぶためのきっかけづくりを行う。そのために、外部講師として川越市立博物館の職員を招聘し、「蔵造り」「川越まつり」の2つを中心に話をさせていただく。歴史的背景や、博物館の展示資料について、直接話を聞くことにより、郷土に対する興味・関心を高めていきたい。さらに自分の研究テーマを決定するためのイメージを膨らませ、よりよい課題設定に結びつけたい。

(3) 指導観

本単元の目標の1つは、探究の過程において積極的に博物館を活用しようとする態度を育成することである。そのために、講師の説明だけでは課題が解決できないようにし、博物館でさらに調べ、考えていくことで課題が解決できるような展開を考えた。また、探究意欲を喚起させるため、資料等の提示の仕方も「これは何だろうね。何のために使うのかな。」というように、一部分だけを見せ展開していくような工夫をしていきたい。

本時では、博物館の職員だけではなく、様々な分野で活躍している地域の方を招き、体験講座を開く。生徒は自分の興味・関心にしたがって講座を選択し、研究テーマの設定に結びつけられるようにする。

3 研究主題とのかかわり

(1) 本単元における新学習指導要領のかかわり

博物館等の社会教育施設や社会教育関係団体等の各種団体と連携、地域の教材や学習環境の積極的な活用などの工夫を行うこと。

- ・課題解決を図るため、博物館を活用する過程を指導計画に位置づける。
- ・生徒の課題を意識した支援ができるように、職員や解説員との共通理解を深める。

(2) 博物館資料の活用

①資料名（展示コーナー名）

「近代都市川越への道」「産業の振興」「川越大火と蔵造り」（近現代）

「蔵造り」「ふるさとのまつり」「川越まつり」（民俗）

②活用の仕方

ア 自分の課題に応じた資料を「民俗」「近現代」の展示の中から探し、解決に向けて調査する。

イ 博物館職員による説明や、解説員への質疑応答を通して探究活動を進める。

#### 4 単元の目標

- 川越や身近な地域の歴史、伝統、文化について誇りと愛着をもつと同時に、博物館を積極的に活用することができる。
- 自分自身の生活を見つめ直し、よりよくするための努力と自分に出来ることを考え、実生活に生かすことができる。
- 地域の人々との触れ合いや出会いなどの体験活動を通して、地域の一員としての自覚を高める。

#### 5 単元の評価規準

| 学習方法に関すること                                                  | 自分自身に関すること                                | 他者や社会とのかかわりに関すること                                   |
|-------------------------------------------------------------|-------------------------------------------|-----------------------------------------------------|
| 地域の人との体験活動を通して課題設定をすることができる。また、課題解決のために、積極的に博物館を活用することができる。 | 課題解決を図りながら、自分自身の生活を見つめ直し研究を実生活に生かすことができる。 | 地域の人とのふれあい、課題を探究するすることを通して川越の街を見つめ、地域の一員としての自覚を高める。 |

#### 6 学習指導計画（50時間扱い）

| 小 単 元                    | 学習内容及び学習活動                                                                                                                                                                       | 博物館資料の活用                                                                                                |
|--------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 ベース学習<br>(4時間)         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイダンス</li> <li>・上級生による発表</li> </ul>                                                                                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「地域理解学習」で、博物館の職員を招聘し出前授業を実施</li> </ul>                          |
| 2 課題発見のための体験活動<br>(15時間) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「川越の蔵造り・川越まつり」</li> <li>「田面沢について」</li> <li>「ゆかた着付け教室」</li> <li>「さつまいも料理のいろいろ」</li> <li>「ホテルが育つ地域づくり」等</li> <li>それぞれが選択した講座の体験</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>『蔵造りについて』</li> <li>『川越まつりについて』</li> <li>・博物館検索システムの活用</li> </ul> |
| 3 研究計画づくり<br>(6時間)       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェビング</li> <li>・夏休みの体験計画</li> <li>・体験の予約</li> </ul>                                                                                      |                                                                                                         |
| 4 課題解決のための体験活動           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題解決のための体験活動</li> <li>〈博物館・工場・福祉施設など〉</li> </ul>                                                                                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人の博物館利用</li> <li>◇〈近世〉小江戸川越</li> <li>◇〈民俗〉川越の職人とまつり</li> </ul> |
| 5 研究の推進(分科会)<br>(20時間)   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・分科会に分かれて研究</li> <li>・「体験活動報告会」</li> </ul>                                                                                                |                                                                                                         |
| 6 本発表 (5時間)              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・全員発表 【学校公開日】</li> <li>・各分科会より優秀者発表</li> </ul>                                                                                            |                                                                                                         |



## 8 成果と課題

### (1) 成 果

- 総合的な学習の時間の中で、初めて博物館の方を招いてお話を聞くことができた。体育館の大きなスクリーンを使って分かりやすく説明して下さったおかげで、生徒たちは今まで以上に川越のまちに関心を持ち、伝統や文化に対する思いを深めることができた。
- 蔵造りや川越まつりに関する課題を設定し、後日自分で博物館へ足を運んだ生徒も多くいる。このようなことから、博物館の方から直接話を聞くという体験は大きな成果があったと言える。

### (2) 課 題

- 「蔵造り」「川越まつり」という枠を超えて、広く地域に対する興味・関心を深めるために、博物館の他の資料の活用や展示の紹介の仕方を工夫していく必要があると考える。